

2019年度 医療科学部・保健衛生学部 IR 報告書
—2018年度 卒業生を対象としたディプロマ・
ポリシー到達度調査（教員評価）—



藤田医科大学 | IR推進センター
医療科学部・保健衛生学部 | IR分室

2019年 12月 27日

藤田医科大学 | IR推進センター

医療科学部・保健衛生学部 I R分室の分析報告

2018 度卒業生を対象とした

「ディプロマ・ポリシーに対する到達度」 教員評価

調査結果について

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度
 - 1-1) 調査方法
 - 1-2) 学部全体の調査結果および到達度の分析
 - 1-2-1) 調査結果の概要
 - 1-2-2) 学部全体としての分析
 - 1-2-3) 学科間の比較
 - 1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析
 - 1-3-1) 臨床検査学科
 - 1-3-2) 看護学科
 - 1-3-3) 放射線学科
 - 1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻
 - 1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻
 - 1-3-6) 臨床工学科
 - 1-3-7) 医療経営情報学科

2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度
 - 2-1) 調査方法
 - 2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析
 - 2-2-1) 臨床検査学科
 - 2-2-2) 看護学科
 - 2-2-3) 放射線学科
 - 2-2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻
 - 2-2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻
 - 2-2-6) 臨床工学科
 - 2-2-7) 医療経営情報学科

2018年度医療科学部卒業生を対象とした「医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度」教員評価の調査結果について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、各学科の 2018 年度卒業生を対象に 2018 年度医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する修得度(到達度)の教員評価による分析を行いましたので、その結果について報告いたします。

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) は、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針のことです。本学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・能力・態度としてディプロマ・ポリシーを設定しています。

2019 年 12 月 27 日

2019 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
山田晃司、鈴木康司、世古留美、寺本篤司、大塚 圭、日比谷 信、武藤晃一、
近藤宏美

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度

1-1) 調査方法

医療科学部の2018年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、教員による授業科目の成績評価結果より算出を試みたので、その方法について示す。

本学部においては、学生を卒業時にディプロマ・ポリシーに到達させるため、アドミッション・ポリシーに基づき入試選抜を実施し、入学者に対してカリキュラム・ポリシーに基づくカリキュラム編成による教育を実施している。カリキュラム編成の中で、どの授業科目がどのディプロマ・ポリシーの到達に寄与するかについては、学科毎にカリキュラムマップを作成して明示している。さらに、本学にて導入している学修成果可視化システムにおいて、ディプロマ・ポリシーよりブレイクダウンした教育目標項目を設定し、教育目標項目ごとに授業科目を割り当てたカリキュラムマップを作成している。今回、この学習成果可視化システムのカリキュラムマップを利用し、ディプロマ・ポリシーに対する到達度を算出することとした。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの各到達目標（計8項目）について、対応する学修成果可視化システムの教育目標項目をマッピングし、教育目標項目にマッピングされた授業科目（学修成果可視化システムのカリキュラムマップにて指定される）ごとの成績結果点数を合計し、授業科目数で除した平均値（以下、「DP到達目標平均点」という。）を求める作業を、2018年度全卒業生に対して実施した。なお、学生により選択科目が履修されていない場合は、DP到達目標平均点を求める計算より除外した。算出したDP到達目標平均点を表1-1に示す換算表にて評価尺度1～6の値に変換し、これを教員評価による各学生の医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度とした。医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目を表1-2に示す。

表1-1. DP到達目標平均点と到達度評価尺度の換算表

| DP到達目標平均点 | 到達度評価尺度 |
|-----------|--------------------------|
| 90～100 | 6：完全に修得できている |
| 80～90未満 | 5：概ね修得できている |
| 70～80未満 | 4：最低水準は修得できている |
| 65～70未満 | 3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない |
| 60～65未満 | 2：十分に修得できていない |
| 0～60未満 | 1：全く修得できていない |

表 1 - 2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 到達目標

| | |
|------------|--|
| DP1 (専門知識) | 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。 |
| DP2 (倫理教養) | 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。 |
| DP3 (科学行動) | 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。 |
| DP4 (論理思考) | 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。 |
| DP5 (生涯学習) | 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。 |
| DP6 (責任感) | 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。 |
| DP7 (専門技能) | 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。 |
| DP8 (コミュ力) | 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。 |

1-2) 学部の調査結果および到達度の分析

2018年度医療科学部卒業生を対象としてDP到達目標平均点を求め、医療科学部ディプロマ・ポリシーの教員評価結果値を求めた。

1-2-1) 調査結果の概要

ディプロマ・ポリシー到達目標の教員評価結果について、DP1（専門知識）～DP8（コミュカ）ごと、学部全体および各学科の教員評価結果となる到達度（1～6段階）の度数を表1-3に示す。合わせて、そのヒストグラムを図1-1に示す。

学習成果可視化システムのカリキュラムマップを利用したディプロマ・ポリシーの教員評価について、卒業生の成績データより到達度を算出していることから自明ではあるが、「1：全く修得できていない」、「2：十分に習得できていない」と評価される学生はなかった。DP1～DP8全体において、「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」との評価となった学生は1.00%（37/3,712）と極少数であった。「4：最低水準は修得できている」が40.7%（1,510/3,712）、「5：概ね修得できている」が53.5%（1,987/3,712）と大多数を占めた。「6：完全に修得できている」は4.8%（178/3,712）と少数であった。

表1-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 教員評価結果

| DP1 (専門知識) | | | | | | | | | DP2 (倫理教養) | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n | 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n |
| 6 | 11 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 4 | 6 | 25 | 10 | 0 | 5 | 3 | 1 | 3 | 3 |
| 5 | 182 | 70 | 21 | 25 | 21 | 5 | 22 | 18 | 5 | 297 | 80 | 70 | 23 | 46 | 29 | 31 | 18 |
| 4 | 259 | 27 | 81 | 22 | 37 | 43 | 33 | 16 | 4 | 140 | 14 | 33 | 21 | 11 | 20 | 24 | 17 |
| 3 | 12 | 3 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 | n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 |

| DP3 (科学行動) | | | | | | | | | DP4 (論理思考) | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n | 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n |
| 6 | 7 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 6 | 27 | 11 | 2 | 8 | 2 | 2 | 2 | 0 |
| 5 | 199 | 72 | 32 | 25 | 20 | 5 | 25 | 20 | 5 | 314 | 72 | 75 | 26 | 43 | 37 | 37 | 24 |
| 4 | 251 | 27 | 70 | 23 | 40 | 44 | 30 | 17 | 4 | 123 | 21 | 26 | 17 | 15 | 11 | 19 | 14 |
| 3 | 7 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 | n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 |

| DP5 (生涯学習) | | | | | | | | | DP6 (責任感) | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|--------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n | 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n |
| 6 | 27 | 14 | 0 | 6 | 0 | 0 | 2 | 5 | 6 | 21 | 9 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 7 |
| 5 | 214 | 61 | 45 | 21 | 24 | 7 | 37 | 19 | 5 | 263 | 80 | 51 | 37 | 27 | 14 | 29 | 25 |
| 4 | 216 | 27 | 58 | 21 | 36 | 42 | 18 | 14 | 4 | 177 | 13 | 52 | 11 | 32 | 36 | 27 | 6 |
| 3 | 7 | 2 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 | n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 |

| DP7 (専門技能) | | | | | | | | | DP8 (コミュカ) | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|---------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n | 学部 | 検査 | 看護 | 放射 | リ理 | リ作 | 臨工 | 医経 | n |
| 6 | 9 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 | 6 | 51 | 18 | 0 | 2 | 4 | 0 | 6 | 21 |
| 5 | 224 | 69 | 49 | 26 | 22 | 10 | 27 | 21 | 5 | 294 | 72 | 63 | 33 | 52 | 14 | 44 | 16 |
| 4 | 225 | 29 | 53 | 22 | 38 | 40 | 28 | 15 | 4 | 119 | 14 | 40 | 16 | 4 | 36 | 8 | 1 |
| 3 | 6 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 | n | 464 | 104 | 103 | 51 | 60 | 50 | 58 | 38 |

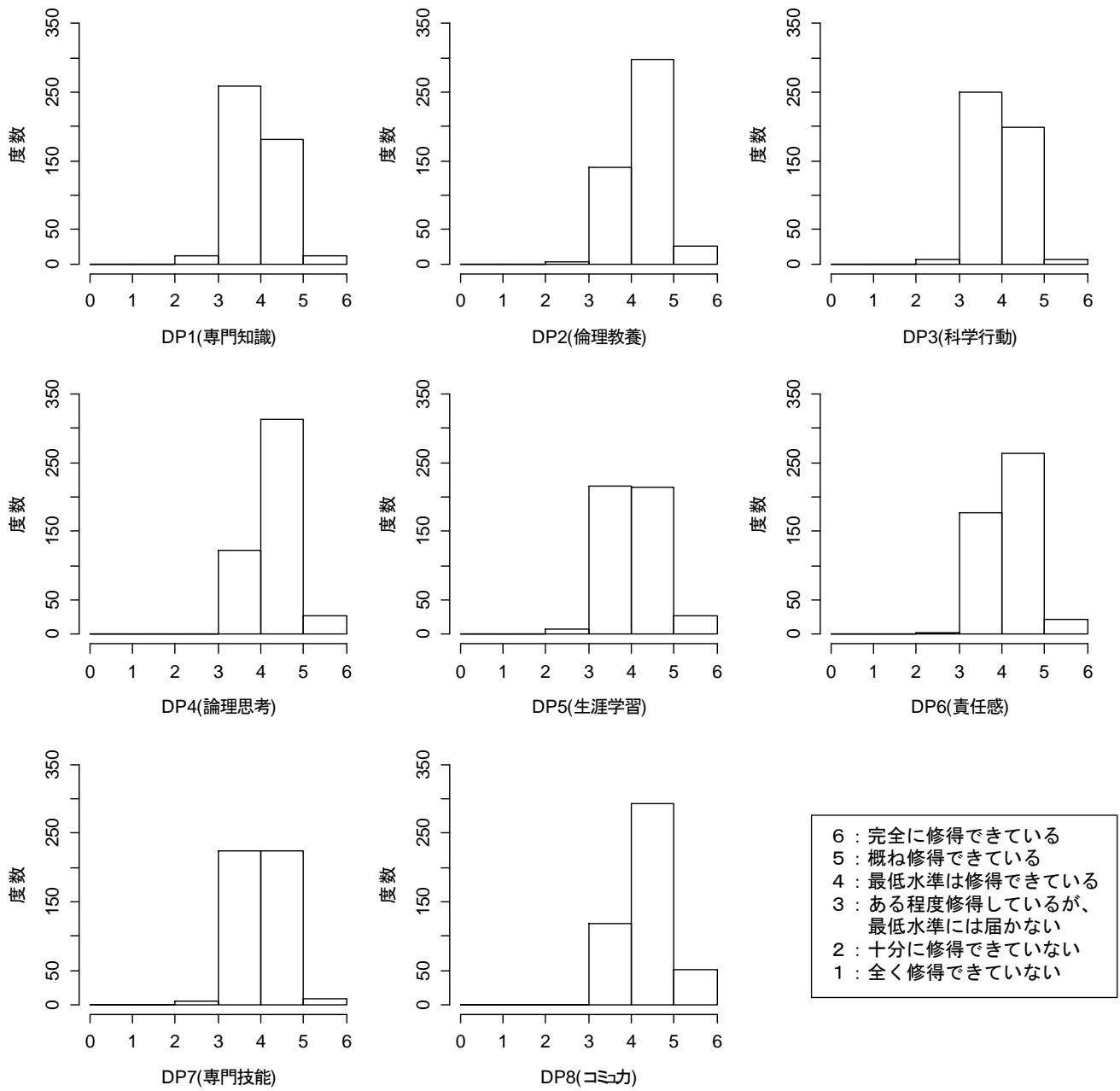


図1-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度の教員評価結果 学部全体

1-2-2) 学部全体としての分析

各ディプロマ・ポリシー到達目標の学部全体の教員評価結果の割合を図1-2に示す。学部全体の教員評価結果について基本統計量を表1-4に示す。各ディプロマ・ポリシー到達目標の教員評価結果の平均値を求め、レーダーチャートとして図1-3に示す。図1-3には、医療科学部 IR 分室にて2019年6月24日に報告された「2018年度医療科学部 ディプロマ・ポリシー到達度 調査結果 報告書」(以下、学生自己評価調査)における学生の自己評価による医療科学部学部ディプロマ・ポリシーの各到達目標に対するアンケート調査結果の平均値を合わせて示す。

図1-3より、今回算出した教員評価結果と学生自己評価調査結果とを比較すると、DP1 (専門知識) において教員評価の方が学生自己評価より若干低い評価、DP4 (論理思考) において教員評価の方が若干高い評価を示したが、そのほかの DP についてはほぼ等しい結果であった。医療科学部ディプロマ・ポリシーについて、教員も学生も評価結果の中央値はほぼ「5：概ね修得できた」となった。

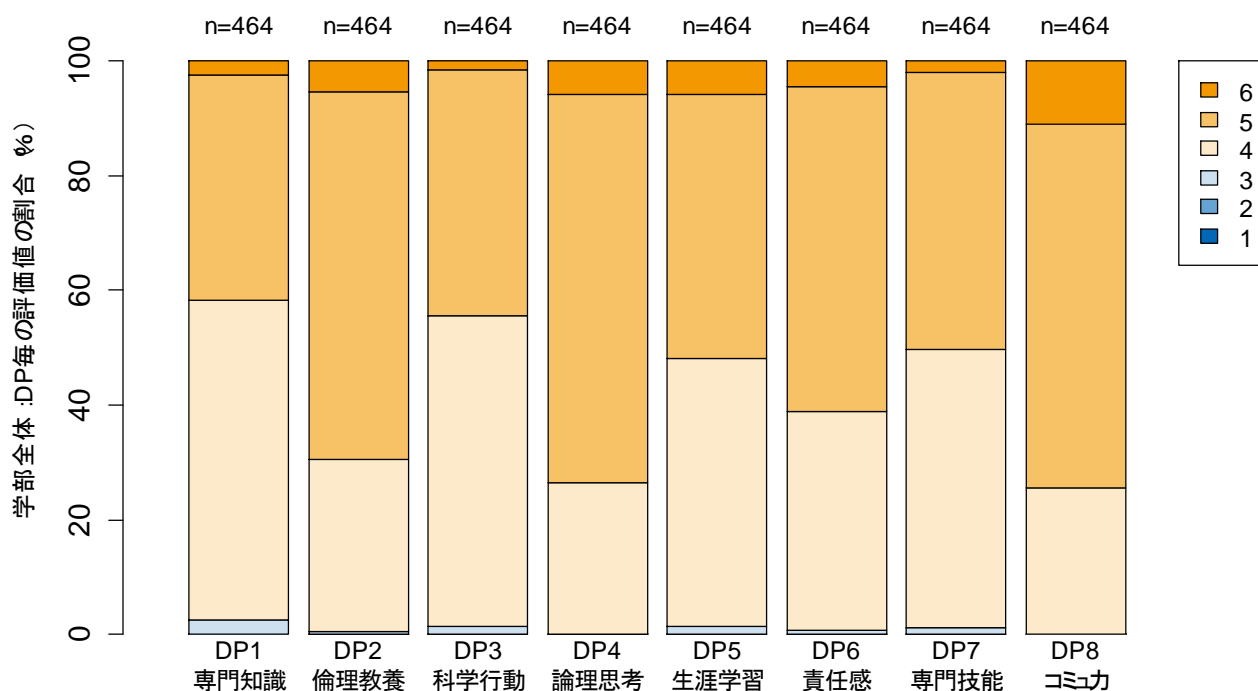
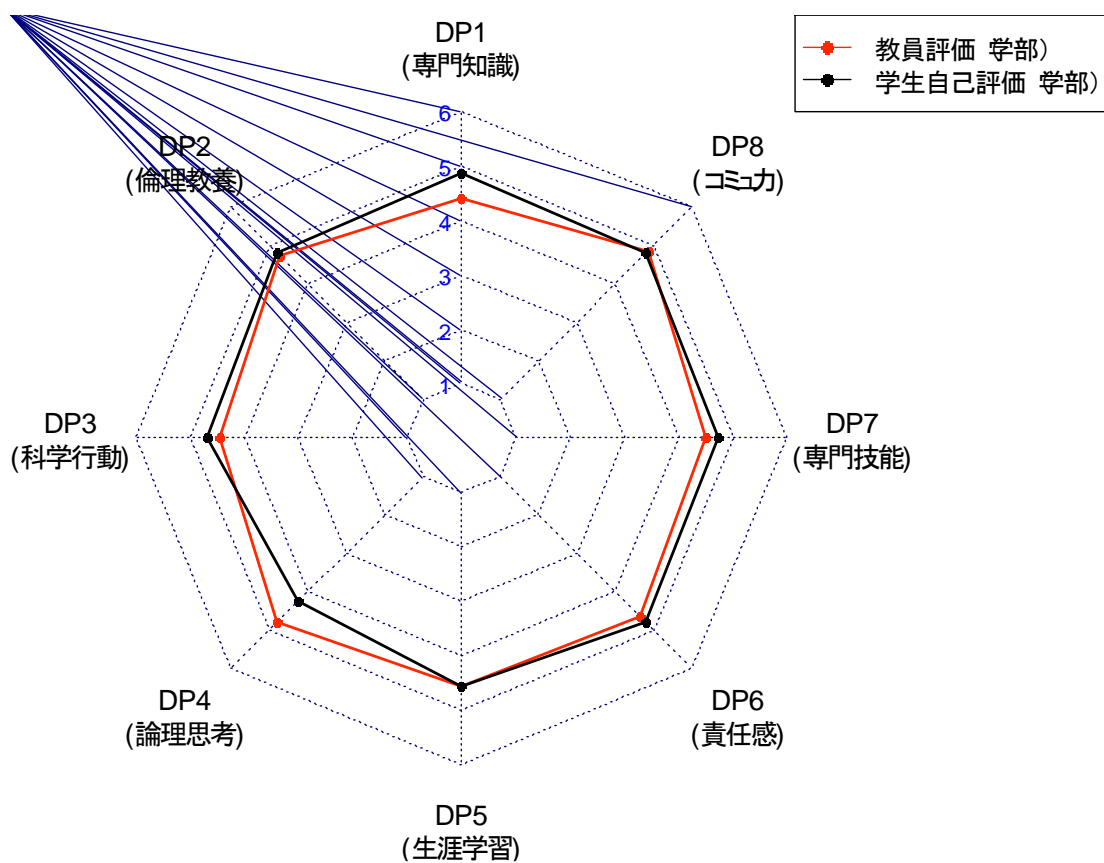


図1-2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
教員評価結果 DP 毎の回答割合

表 1 - 4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 教員評価結果の概要

| 学部 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.41 | 4.74 | 4.44 | 4.79 | 4.56 | 4.65 | 4.51 | 4.85 |
| 標準偏差 | 0.58 | 0.55 | 0.55 | 0.53 | 0.63 | 0.58 | 0.56 | 0.59 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 |
| n | 464 | 464 | 464 | 464 | 464 | 464 | 464 | 464 |



| 学部 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.41 | 4.74 | 4.44 | 4.79 | 4.56 | 4.65 | 4.51 | 4.85 |
| 学生自己評価 b | 4.87 | 4.82 | 4.69 | 4.25 | 4.57 | 4.78 | 4.72 | 4.81 |
| 差 a-b | -0.46 | -0.08 | -0.25 | 0.54 | -0.01 | -0.13 | -0.21 | 0.04 |

図 1 - 3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
教員評価結果 評価値の平均値

1-2-3) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8つの到達目標について、教員評価結果の学科毎の分布を箱ひげ図にて比較したグラフを図1-4に示す。ディプロマ・ポリシーごとに算出した評価値の割合を学科間で比較するグラフを図1-5に示す。

DP1（専門知識）、DP3（科学行動）、DP5（生涯学習）、DP6（責任感）、DP7（専門技能）では各学科の評価値の中央値は4または5と差がみられたが、DP2（倫理教養）およびDP4（論理思考）では中央値は5であり学科間で差はなく、DP8（コミュ力）の中央値は4～6と差がみられた。

学科間で比較した場合、教員評価が高い傾向なのは臨床検査学科・臨床工学科・医療経営情報学科で、DP1～DP7の全てで中央値は5、DP8では医療経営情報学科の中央値は6であった。評価が低い傾向なのはリハビリテーション学科作業療法専攻で、6つのDPの中央値が4であった。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科間で評価値の平均値に差があるかを確かめるため、F統計量を用いるすべての2群同士を比較する検定である Games-Howell 法を用いて有意差検定を行った。検定の結果は、図1-4の箱ひげ図中に、 $p<0.05$ にて有意差が認められた学科間を「*」、 $p<0.01$ にて有意差が認められた学科間を「**」として図示した。検定結果および評価値の平均値より、DP1（専門知識）は臨床検査学科、次いで医療経営情報学科で高く評価する傾向、DP2（倫理教養）は臨床検査学科で高く評価する傾向、DP3（科学行動）は臨床検査学科で高く評価する傾向の一方、リハビリテーション学科作業療法専攻で低く評価する傾向、DP4（論理思考）では評価傾向の差はみられず、DP5（生涯学習）は臨床検査学科で高く評価する傾向の一方、リハビリテーション学科作業療法専攻で低く評価する傾向、DP6（責任感）では医療経営情報学科と臨床検査学科で高く評価する傾向、DP7（専門技能）は臨床検査学科で高く評価する傾向の一方、リハビリテーション学科作業療法専攻で低く評価する傾向、DP8（コミュ力）では医療経営情報学科、次いで臨床検査学科で高く評価する傾向の一方、リハビリテーション学科作業療法専攻で低く評価する傾向がみられた。2018年度の医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度の教員評価は、臨床検査学科、医療経営情報学科の2学科で高く評価する傾向、リハビリテーション学科作業療法専攻で低く評価する傾向であった。

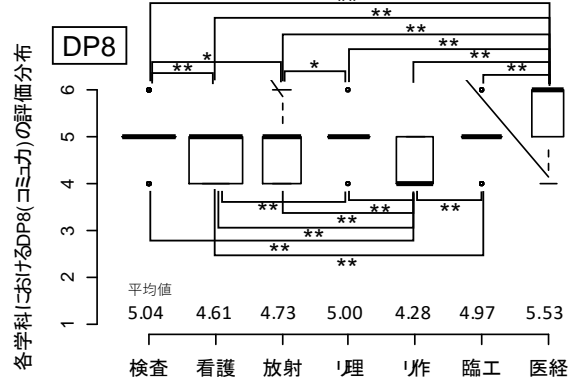
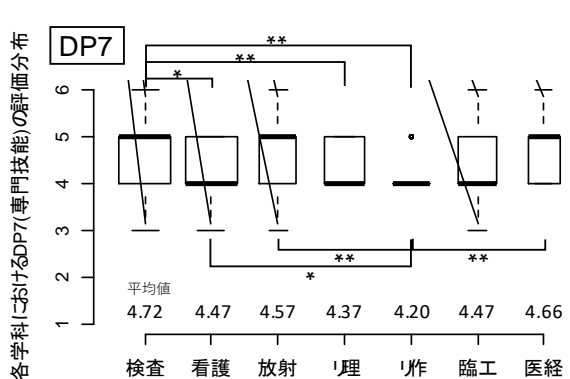
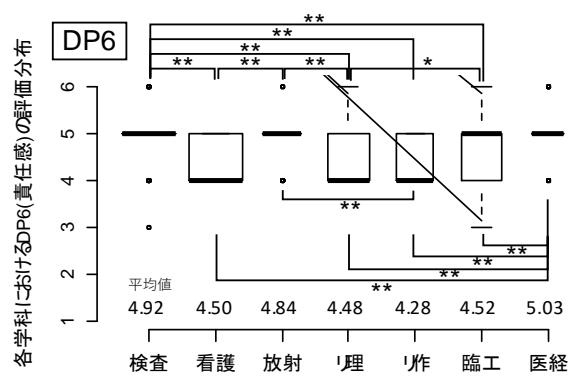
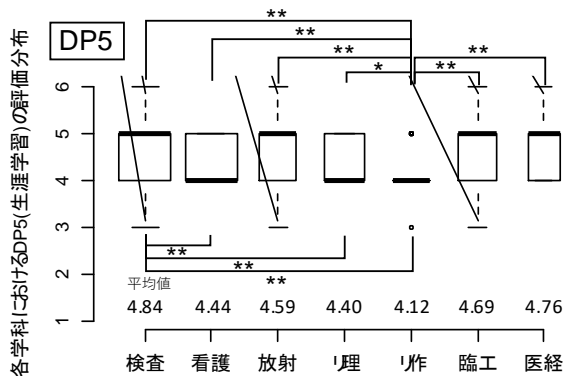
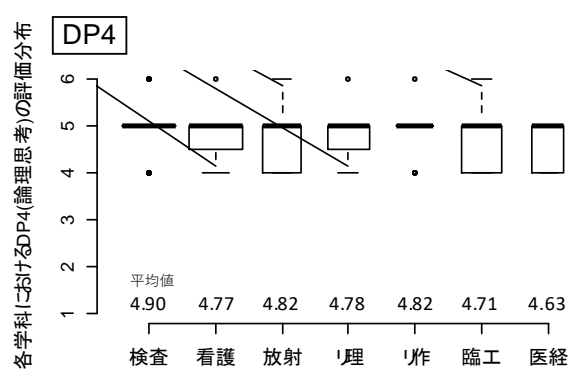
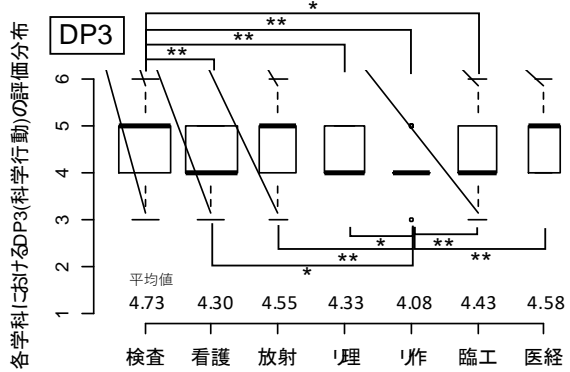
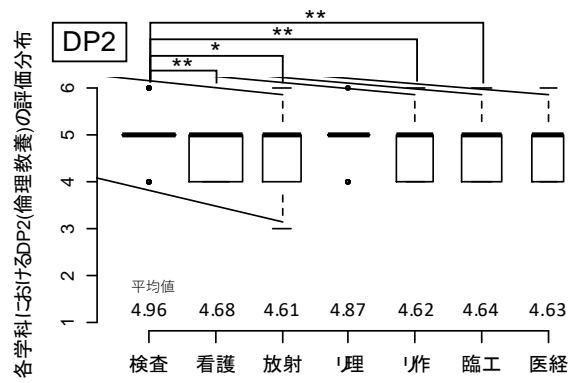
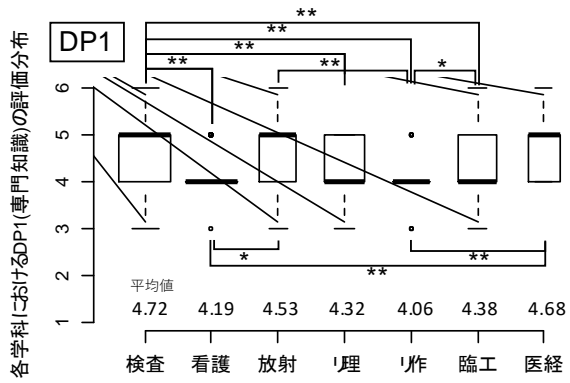


図1-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
 教員評価結果 学科毎の評価結果分布の比較

Games-Howell 法
 * p<0.05
 ** p<0.01

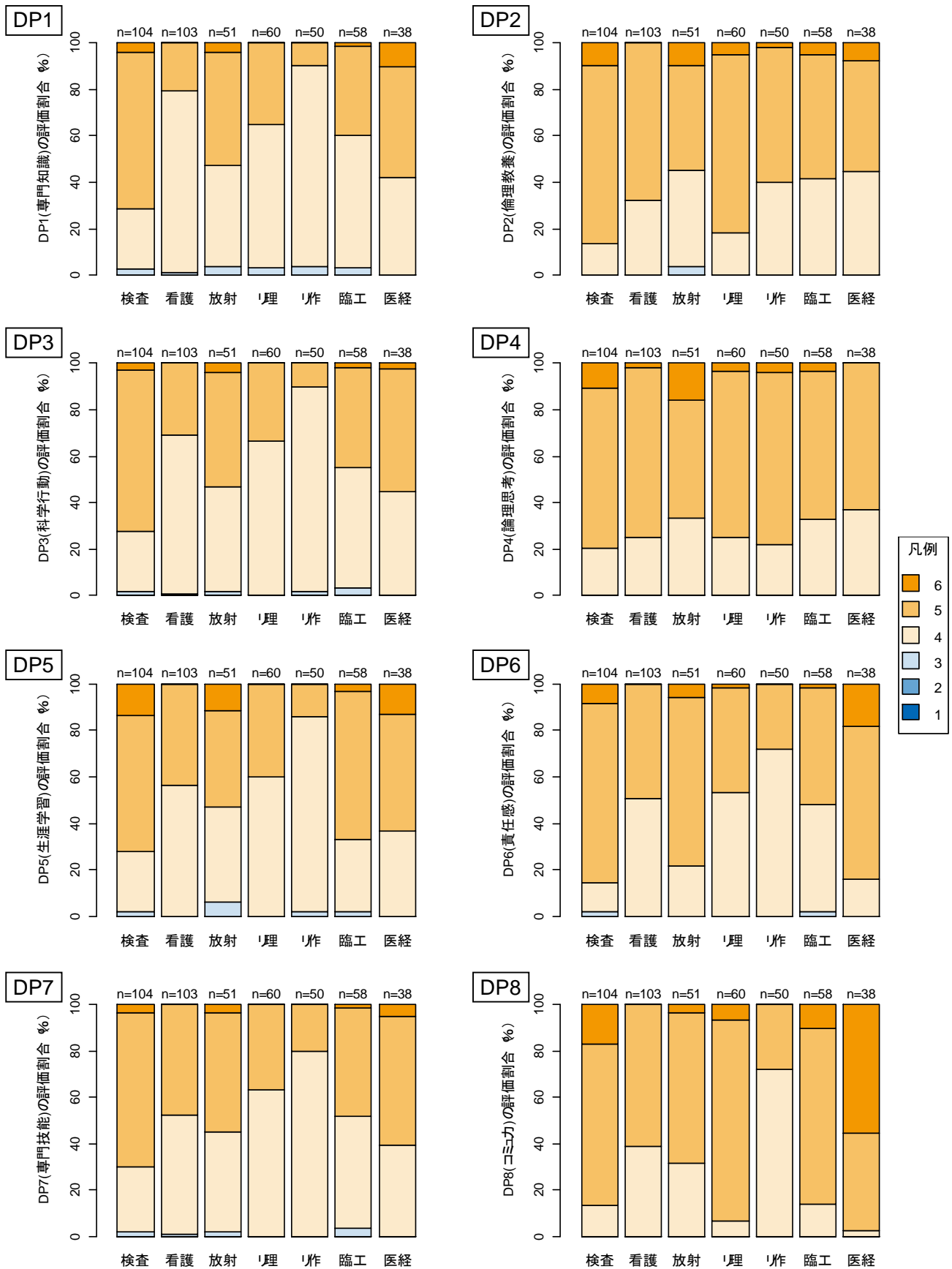


図 1-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
 教員評価結果 学科毎の評価値の割合(%)の比較

1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

1-3-1) 臨床検査学科

医療科学部の DP1～DP8 に対する臨床検査学科の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図1-6に示す。基本統計量を表1-5に示す。DP1～DP8について、学部全体の評価の平均値と臨床検査学科の評価の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床検査学科の各DPの評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-7に示す。

教員評価結果について学部平均と比較すると、8項目すべてにおいて学科の評価値の平均は学部全体の平均よりわずかに高い値であり、すべての項目の中央値が5であった。また学生自己評価と教員評価は-0.14～0.77の開きがあったが、DP1（専門知識）以外の項目は、教員評価のほうが学生自己評価より高かった。最も学生自己評価と教員評価の差が大きかったのは、DP4（論理思考）であり、学生自己評価が0.77低い傾向にあった。DP4に紐付けられた科目は主に低学年で学ぶ教養、語学、アセンブリそして4年生卒業論文である。低学年で学ぶ科目については記憶があいまいなまま回答している可能性があり、卒業論文は、学生がカリキュラムの要求に対してあまり応えられたかどうか実感がわからず、結果として自己評価が低くなったと考える。その他のDPについては、学生自己評価と教員評価との乖離がほとんどなかった。以上の結果から、DP4以外の項目は、学生自己評価と教員評価との間に大きな差は存在せず、また若干乖離のあったDP4も含め教員評価は各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用したDPの到達度は妥当な評価結果となっていると考えられる。

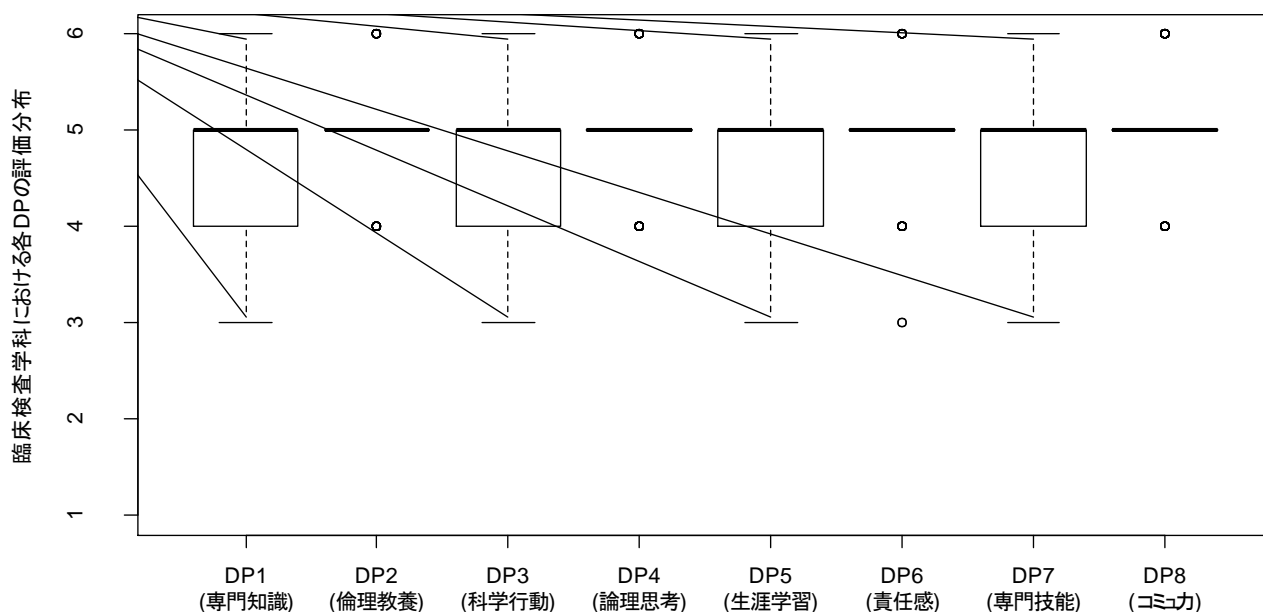


図1-6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 臨床検査学科の教員評価結果分布

表 1-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 臨床検査学科の教員評価結果概要

| 検査 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.72 | 4.96 | 4.73 | 4.90 | 4.84 | 4.92 | 4.72 | 5.04 |
| 標準偏差 | 0.58 | 0.48 | 0.54 | 0.55 | 0.67 | 0.53 | 0.56 | 0.55 |
| 中央値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 |
| n | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 |

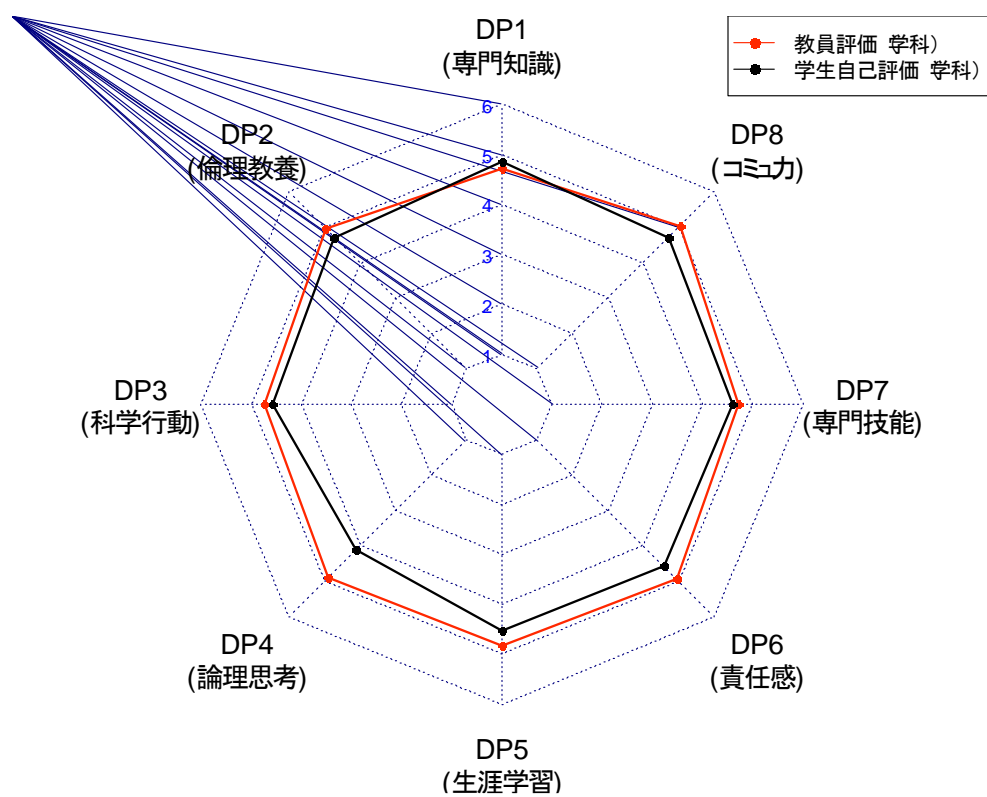


図 1-7. 臨床検査学科における教員評価と学生自己評価の比較 (平均値)

1-3-2) 看護学科

医療科学部の DP 1～DP 8 に対する看護学科の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-8 に示す。基本統計量を表 1-6 に示す。DP 1～DP 8 について、学部全体の評価の平均値と看護学科の評価の平均値、さらに学生自己評価調査における看護学科の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-9 に示す。

教員評価結果について学部平均と比較すると、8 項目すべてにおいて学科の評価値の平均は学部全体の平均より低い値であり、DP 2 (倫理教養)、DP 4 (生涯学習) の項目の中央値が 5 であったが、それ以外の項目は 4 だった。また学生自己評価と教員評価は -0.08～0.94 の開きがあったが、すべての項目で、教員評価のほうが学生自己評価より低かった。最も学生自己評価と教員評価の差が大きかったのは、DP 1 (専門知識) であり、学生自己評価が 0.94 高い傾向にあった。DP 1 に紐付けられた科目は専門科目であり、医療人としての知識取得について教員側は期待している科目である。教員と学生の差が少なかった項目として DP 4 (生涯学習) では 0.08 であり、学生の自己評価が最も低かった。DP 4 に紐付けられた科目は主に低学年で実施する基礎ゼミや語学を中心とした基礎科目である。現在は留学生や国際交流が進められてきているが、低学年時には学修や交流の機会が少なかったと推察される。その他の DP については、学生自己評価と教員評価とでは、学生の自己評価が高く教員評価が低い結果であった。これは、看護学生特有の 4 年間の過密なカリキュラム、バイトや部活などの多忙な生活を過ごした学生生活の達成感だと推測する。以上の結果より、学生自己評価は教員評価との間に差はみられるものの、教員評価は各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用した DP の到達度は妥当な評価結果となっていると考えられる。

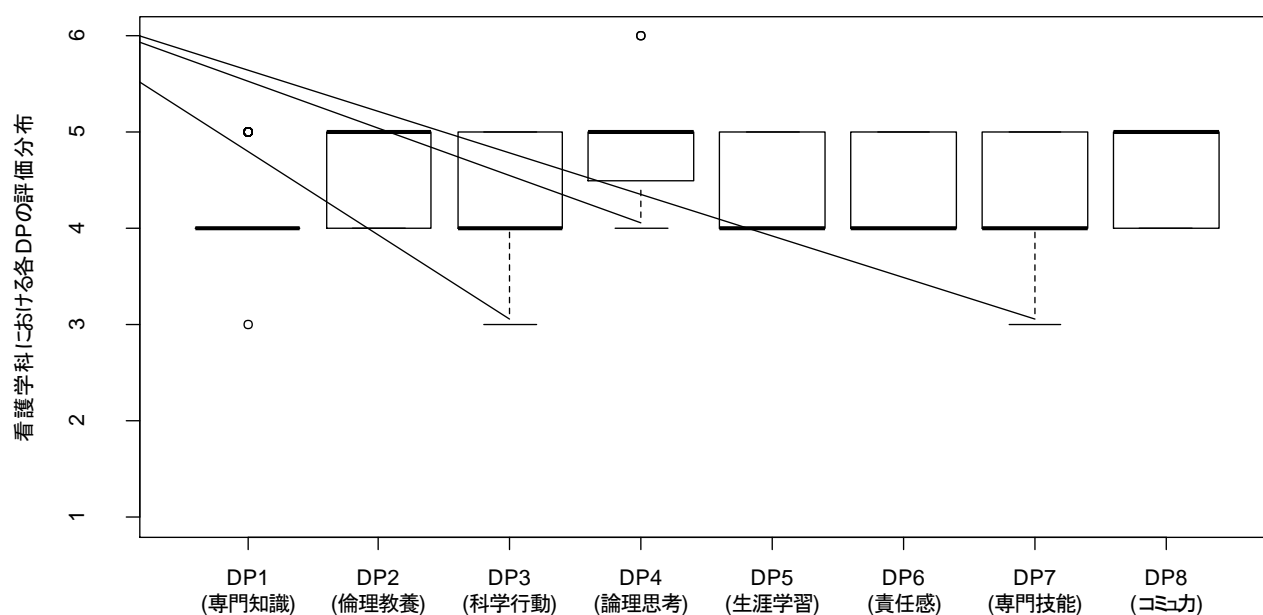
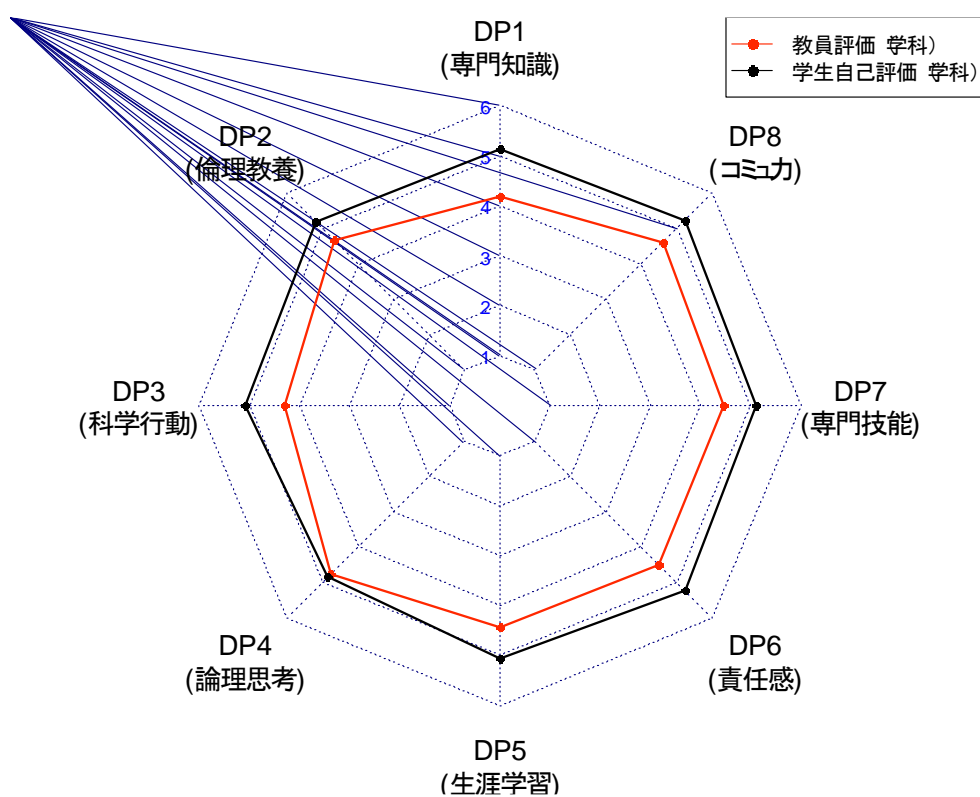


図 1-8. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 看護学科の教員評価結果分布

表 1-6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 看護学科の教員評価結果概要

| 看護 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.19 | 4.68 | 4.30 | 4.77 | 4.44 | 4.50 | 4.47 | 4.61 |
| 標準偏差 | 0.42 | 0.47 | 0.48 | 0.47 | 0.50 | 0.50 | 0.52 | 0.49 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| 最大値 | 5 | 5 | 5 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最小値 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 |
| n | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 |



| 看護 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教員評価 a | 4.19 | 4.68 | 4.30 | 4.77 | 4.44 | 4.50 | 4.47 | 4.61 |
| 学生自己評価 b | 5.13 | 5.20 | 5.08 | 4.85 | 5.06 | 5.23 | 5.11 | 5.24 |
| 差 a-b | -0.94 | -0.52 | -0.78 | -0.08 | -0.62 | -0.73 | -0.64 | -0.63 |

図 1-9. 看護学科における教員評価と学生自己評価の比較 (平均値)

1-3-3) 放射線学科

医療科学部の DP1～DP8 に対する放射線学科の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-10 に示す。基本統計量を表 1-7 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の評価の平均値と放射線学科の評価の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-11 に示す。

DP6 を除き、学科の評価値の平均は学部全体よりやや高い値となった。また、DP4 以外の設問において、教員評価値より自己評価値が高い傾向を示した。両者の差が大きい項目は DP4 (論理思考) であった。DP4 の専門知識に紐付けられた科目には、卒業研究や英文購読などの試験が無い科目や定期試験の合格者が多い科目が含まれており、評価が高くなったと考えられる。教員評価は、各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用した DP の到達度は妥当な評価結果となっていると考えられる。

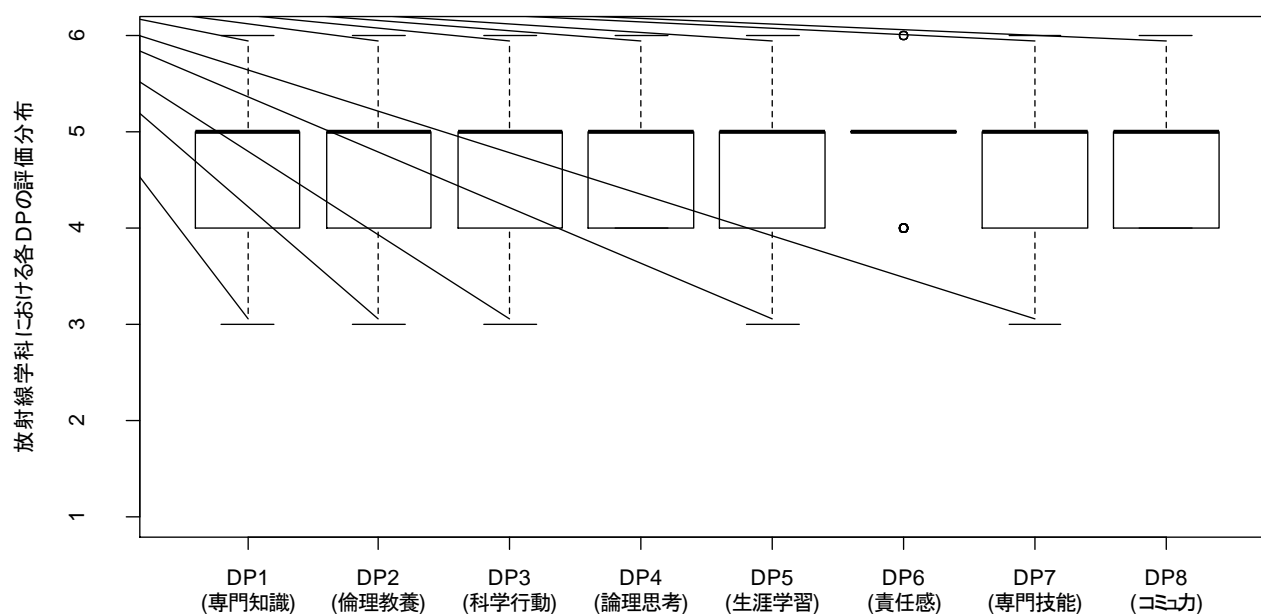
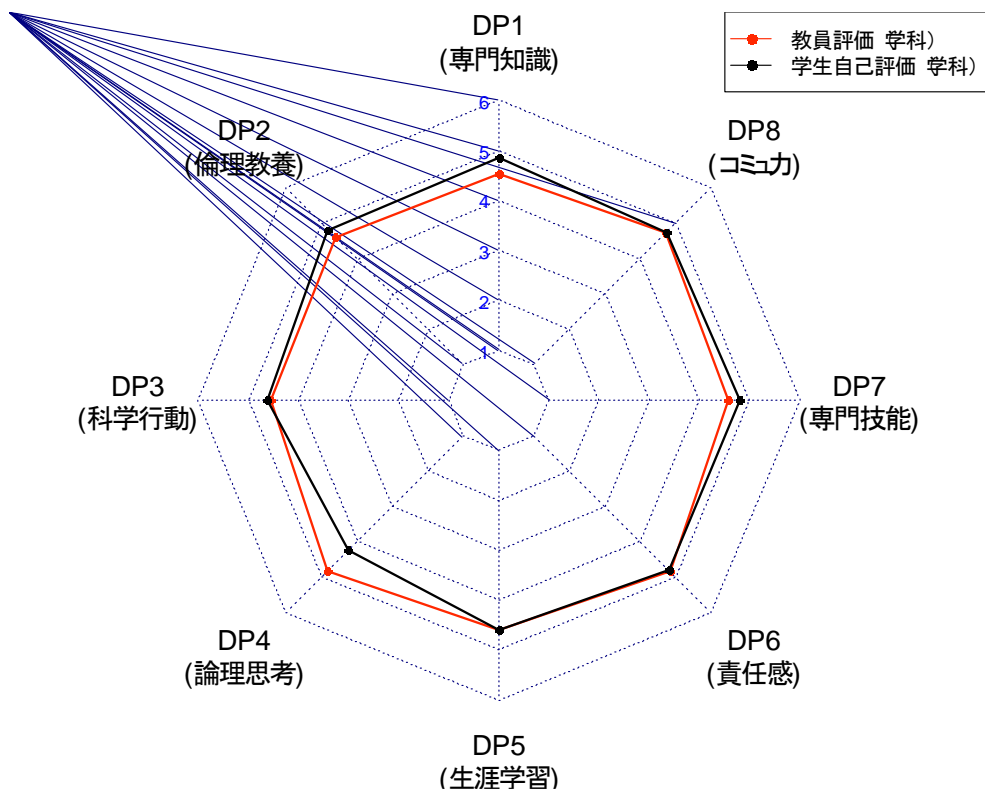


図 1-10. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 放射線学科の教員評価結果分布

表 1-7. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 放射線学科の教員評価結果概要

| 放射 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.53 | 4.61 | 4.55 | 4.82 | 4.59 | 4.84 | 4.57 | 4.73 |
| 標準偏差 | 0.64 | 0.72 | 0.60 | 0.68 | 0.77 | 0.50 | 0.60 | 0.53 |
| 中央値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 |
| n | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 |



| 放射 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|
| 教員評価 a | 4.53 | 4.61 | 4.55 | 4.82 | 4.59 | 4.84 | 4.57 | 4.73 |
| 学生自己評価 b | 4.86 | 4.82 | 4.61 | 4.26 | 4.61 | 4.80 | 4.82 | 4.73 |
| 差 a-b | -0.33 | -0.21 | -0.06 | 0.56 | -0.02 | 0.04 | -0.25 | -0.00 |

図 1 - 11. 放射線学科における教員評価と学生自己評価の比較（平均値）

1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

医療科学部の DP1～DP8 に対するリハビリテーション学科・理学療法専攻の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-12 に示す。基本統計量を表 1-8 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の評価の平均値とリハビリテーション学科・理学療法専攻の評価の平均値、さらに学生自己評価調査におけるリハビリテーション学科・理学療法専攻の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-13 に示す。

DP1～DP8 の全てにおいて学生評価と教員評価が大きく異なることはなく、教員評価の方が学生評価よりも高い評価、低い評価はほぼ同数となった。差が大きくなったのは DP4 (論理思考) であった。DP4 の学生自己評価は他の DP と比べ低い評価であった。リハビリテーション学科・理学療法専攻では、DP4 に関連するカリキュラムを、統計学、情報処理学関連科目、臨床実習関連、臨床研究などに割り当てている。特に、臨床実習関連、臨床研究は、論理的思考を養うことができる科目である一方、明確な解答が得られない科目でもあるため、理解しきれず、達成感を得られていない結果、自己評価が低くなったことが考えられる。いずれにせよ、教員評価は各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用した DP の到達度は妥当な評価結果となっていると考えられる。

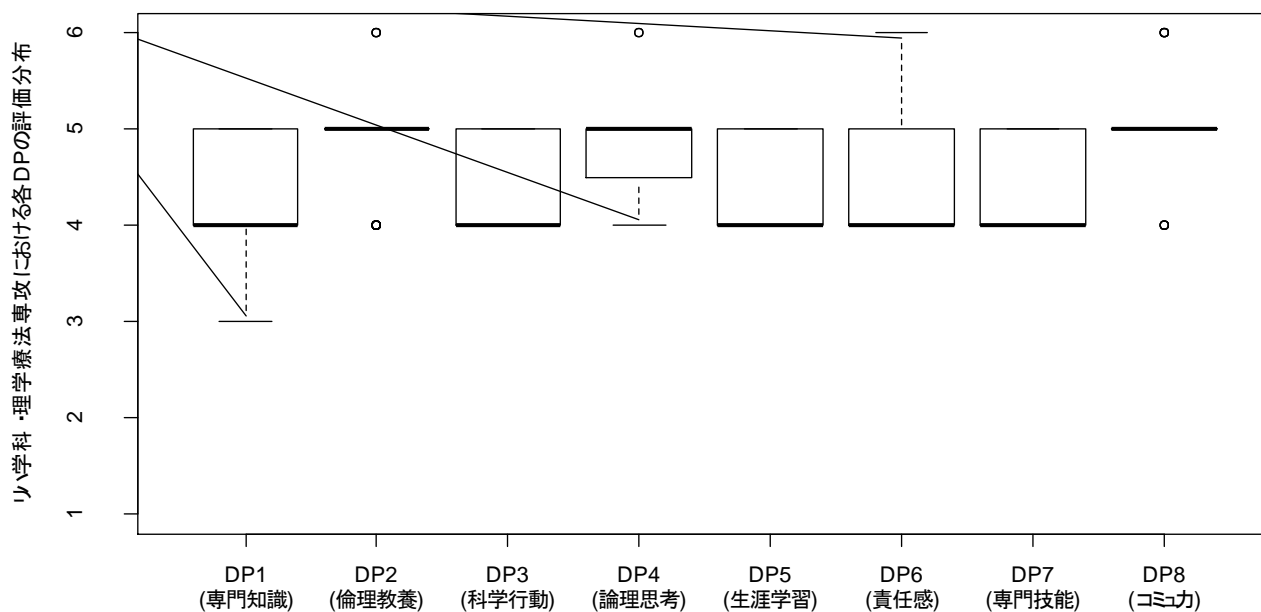
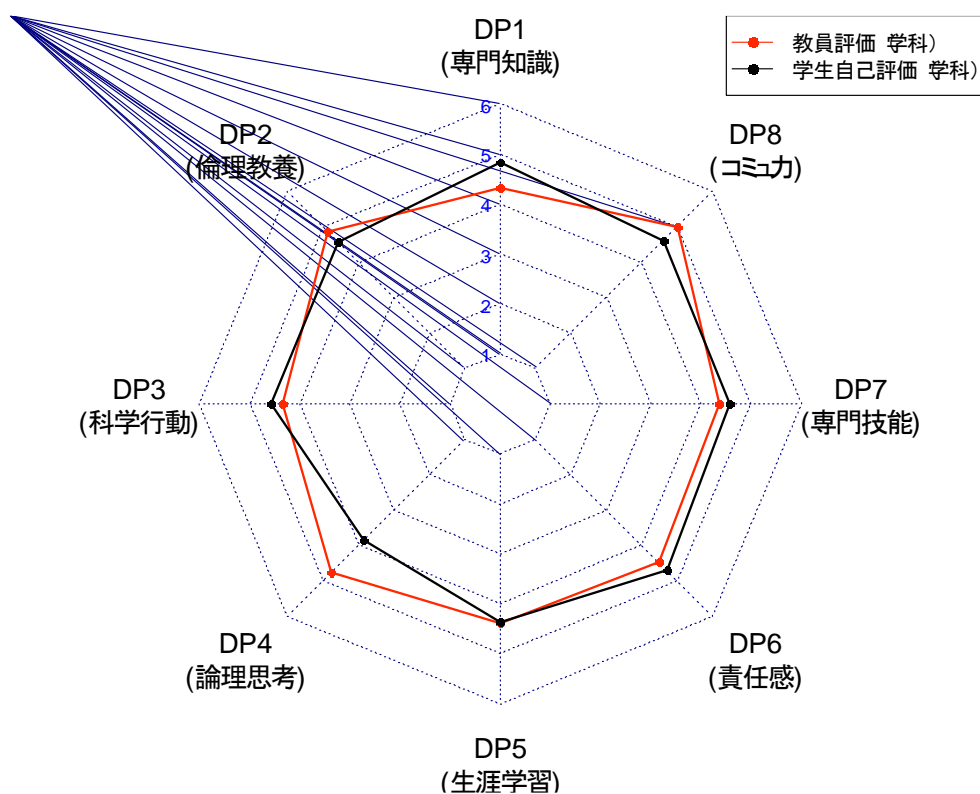


図 1-12. 医療科学部ディプロマ・ポリシー
リハビリテーション学科・理学療法専攻の教員評価結果分布

表 1-8. 医療科学部ディプロマ・ポリシー
リハビリテーション学科・理学療法専攻の教員評価結果概要

| リハ・理学 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.32 | 4.87 | 4.33 | 4.78 | 4.40 | 4.48 | 4.37 | 5.00 |
| 標準偏差 | 0.53 | 0.46 | 0.47 | 0.49 | 0.49 | 0.53 | 0.48 | 0.37 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| 最大値 | 5 | 6 | 5 | 6 | 5 | 6 | 5 | 6 |
| 最小値 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| n | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 |



| リハ・理学 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|------|-------|------|------|-------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.32 | 4.87 | 4.33 | 4.78 | 4.40 | 4.48 | 4.37 | 5.00 |
| 学生自己評価 b | 4.83 | 4.58 | 4.58 | 3.85 | 4.37 | 4.71 | 4.58 | 4.60 |
| 差 a-b | -0.51 | 0.29 | -0.25 | 0.93 | 0.03 | -0.23 | -0.21 | 0.40 |

図 1-13. リハビリテーション学科理学療法専攻における
教員評価と学生自己評価の比較（平均値）

1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

医療科学部の DP1～DP8 に対するリハビリテーション学科・作業療法専攻の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-14 に示す。基本統計量を表 1-9 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の評価の平均値とリハビリテーション学科・作業療法専攻の評価の平均値、さらに学生自己評価調査におけるリハビリテーション学科・作業療法専攻の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-15 に示す。

DP1～DP8 の全てにおいて学生評価と教員評価が大きく異なることはなく、学生評価の方が教員評価よりも高い評価が多かった。差が大きくなったのは DP4 (論理思考) であり、且つ DP4 のみ教員評価が学生自己評価より高かった。リハビリテーション学科・作業療法専攻では、DP4 に関連するカリキュラムを、統計学、情報処理学関連科目、臨床実習関連、臨床研究などに割り当てている。特に、臨床実習関連、臨床研究は、論理的思考を養うことができる科目である一方、明確な解答が得られない科目でもあるため、理解しきれず、達成感を得られていない結果、自己評価が低くなったことが考えられる。いずれにせよ、教員評価は、各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用した DP の到達度は妥当な評価結果となっていると考えられる。

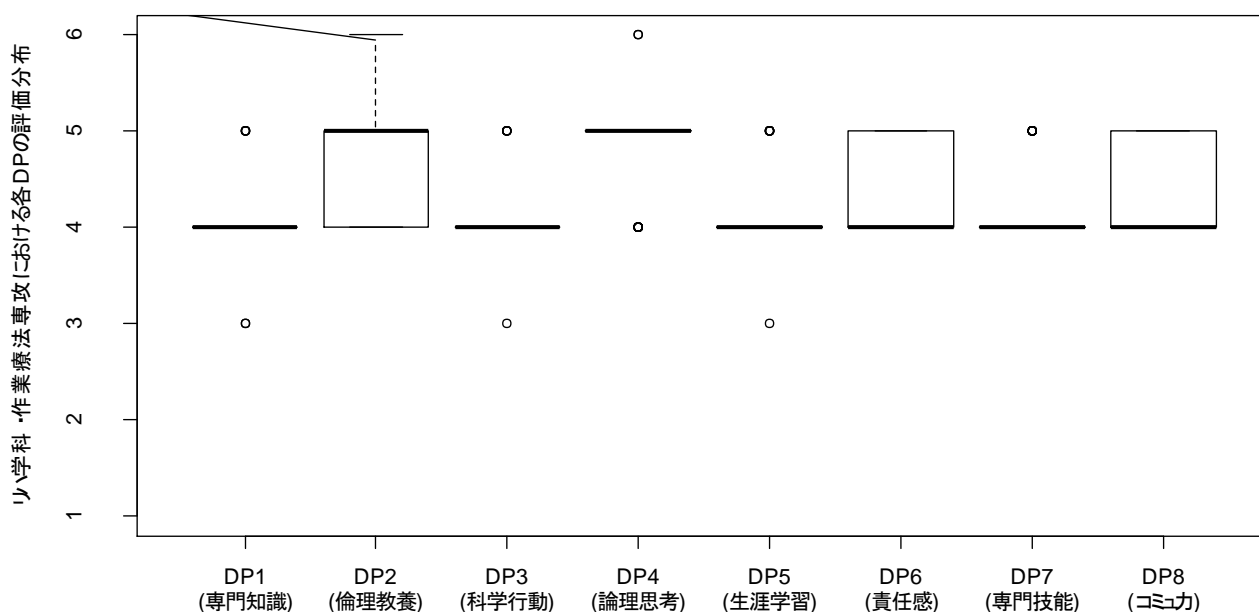
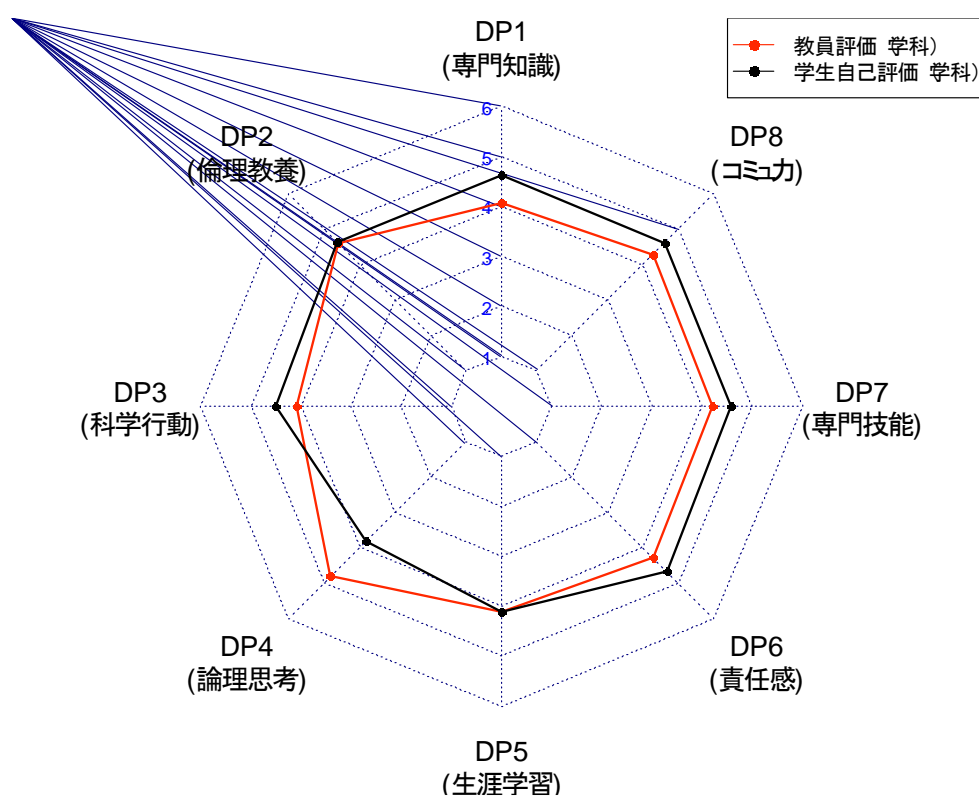


図 1-14. 医療科学部ディプロマ・ポリシー
リハビリテーション学科作業療法専攻の教員評価結果分布

表 1-9. 医療科学部ディプロマ・ポリシー
リハビリテーション学科作業療法専攻の教員評価結果概要

| リハ・作業 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.06 | 4.62 | 4.08 | 4.82 | 4.12 | 4.28 | 4.20 | 4.28 |
| 標準偏差 | 0.37 | 0.52 | 0.34 | 0.48 | 0.38 | 0.45 | 0.40 | 0.45 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 最大値 | 5 | 6 | 5 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最小値 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| n | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |



| リハ・作業 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| 教員評価 a | 4.06 | 4.62 | 4.08 | 4.82 | 4.12 | 4.28 | 4.20 | 4.28 |
| 学生自己評価 b | 4.62 | 4.65 | 4.50 | 3.83 | 4.12 | 4.67 | 4.58 | 4.62 |
| 差 a-b | -0.56 | -0.03 | -0.42 | 0.99 | 0.00 | -0.39 | -0.38 | -0.34 |

図 1-15. リハビリテーション学科作業療法専攻における
教員評価と学生自己評価の比較（平均値）

1-3-6) 臨床工学科

医療科学部の DP1～DP8 に対する臨床工学科の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-16 に示す。基本統計量を表 1-10 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の評価の平均値と臨床工学科の評価の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床工学科の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-17 に示す。

教員評価結果では、DP1～DP8 の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体と同等の値となったが、DP5（生涯学習）、DP8（コミュニケーション力）では若干高値を示した。この評価は、2017 年度卒業生を対象とした評価と同じ傾向を示した。DP4、DP5 や DP8 は教員の評価平均値と学生自己評価平均値とが同等であったが、他は、学生自己評価平均値が 0.2 から 0.5 ポイント高値を示した。

学生が評価した時期は卒業間近であったため、大学での学修におおよそ満足している様が評価に反映されていたと考える。DP1 や DP3 は臨床工学技士国家試験に直結していることから、国家試験に向けた取り組みに満足している様子が伺えるが、教員は 0.5 ポイントほど低くしている。また、DP8 は教員と学生ともに評価が高く、教員評価では第 1 位に学生自己評価では第 2 位でそれぞれ 4.97、4.88 であった。これは、講義、演習や国家試験対策において積極的にグループディスカッションを取り入れてきたことによる評価と予想する。

教員の評価結果と学生自己評価結果との乖離はなく、カリキュラムマップを用いたディプロマ・ポリシー評価は有効であった。

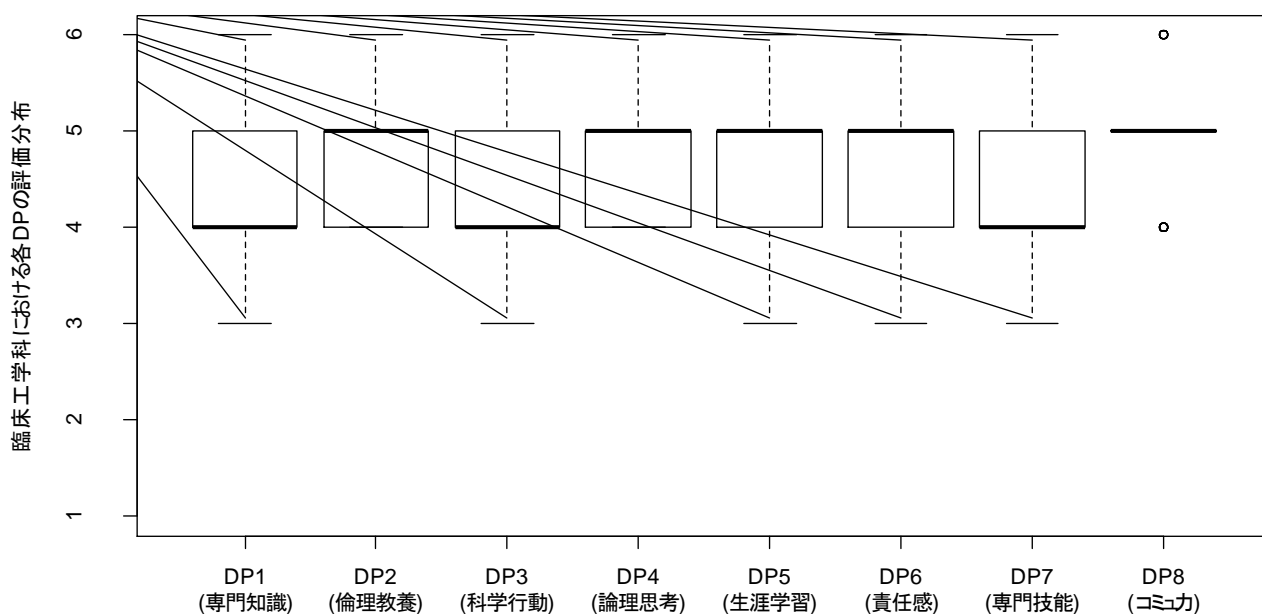
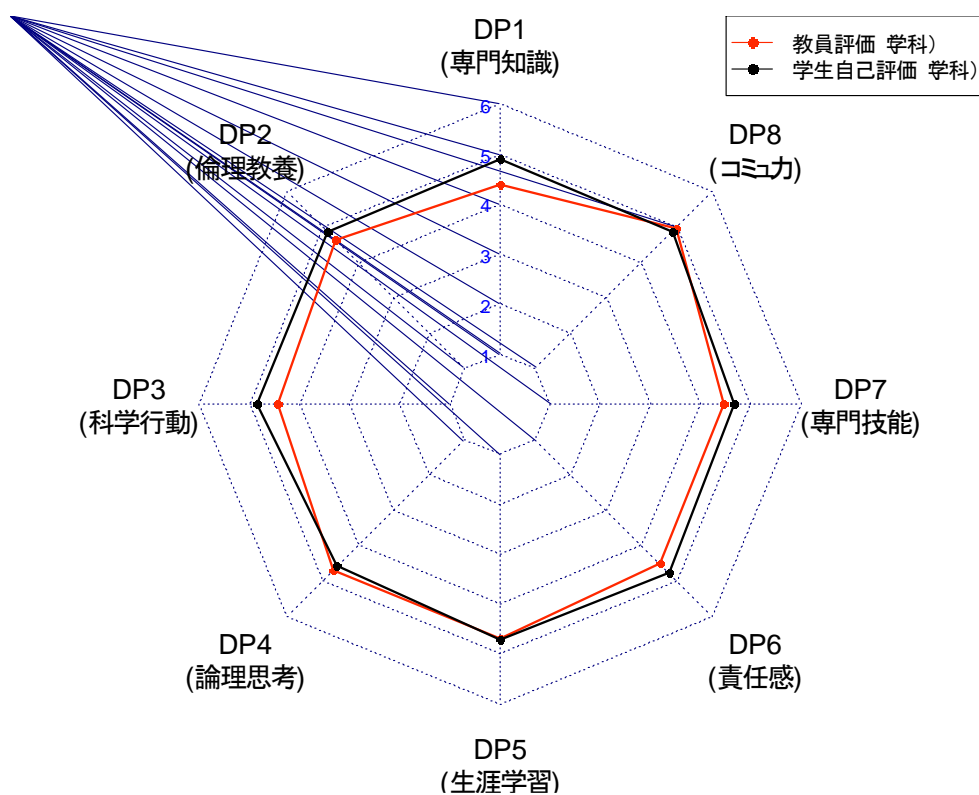


図 1-16. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 臨床工学科の教員評価結果分布

表 1-10. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 臨床工学科の教員評価結果概要

| 臨工 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.38 | 4.64 | 4.43 | 4.71 | 4.69 | 4.52 | 4.47 | 4.97 |
| 標準偏差 | 0.58 | 0.58 | 0.59 | 0.53 | 0.56 | 0.56 | 0.59 | 0.49 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 |
| n | 58 | 58 | 58 | 58 | 58 | 58 | 58 | 58 |



| 臨工 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.38 | 4.64 | 4.43 | 4.71 | 4.69 | 4.52 | 4.47 | 4.97 |
| 学生自己評価 b | 4.91 | 4.86 | 4.85 | 4.59 | 4.72 | 4.78 | 4.67 | 4.88 |
| 差 a-b | -0.53 | -0.22 | -0.42 | 0.12 | -0.03 | -0.26 | -0.20 | 0.09 |

図 1-17. 臨床工学科における教員評価と学生自己評価の比較 (平均値)

1-3-7) 医療経営情報学科

医療科学部の DP1～DP8 に対する医療経営情報学科の教員評価結果の分布を箱ひげ図にて図 1-18 に示す。基本統計量を表 1-11 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の評価の平均値と医療経営情報学科の評価の平均値、さらに学生自己評価調査における医療経営情報学科の各 DP の評価の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図 1-19 に示す。

DP1～DP8 の全てにおいて学生評価より教員評価が高い値となった。差が大きくなったのは、DP4 (論理思考) と DP8 (コミュカ) であった。DP4 の教員評価の平均値は 4.63 と他の DP とほぼ同等の評価を示しているところ、学生評価は 3.61 と他の DP の評価にくらべ最も低い値であったことより差が大きくなった。医療経営情報学科では DP4 に関連するカリキュラムを、学習内容のプレゼンテーションを行う科目、卒業研究に割り当てている。プレゼンテーションのプレッシャーや 4 月～2 月と長期に渡る卒業研究に対する指導について、学生の体感としてはカリキュラムの要求に対してあまり答えられた実感がわからず、結果として自己評価が低くなった可能性がある。教員評価は、各教科の成績が合格の水準に達していることから、カリキュラムマップを利用したディプロマ・ポリシーの到達度の評価は妥当な結果となっていると考えられる。また、評価の差が大きくなった DP8 については、学生評価は 4.45 と特に低い値ではないところ、教員評価が 5.53 (中央値 6) と高い評価となった。コミュニケーションについては、アセンブリ、語学系科目、実習系科目、卒業研究のカリキュラムマップから算出しているが、とくに高い成績評価をしている科目もないことから、若干のマッピングの見直しにより評価の差を縮小するべきと考えられる。ただ、卒業生のディプロマ・ポリシーの到達度としては十分に達していると評価できる。

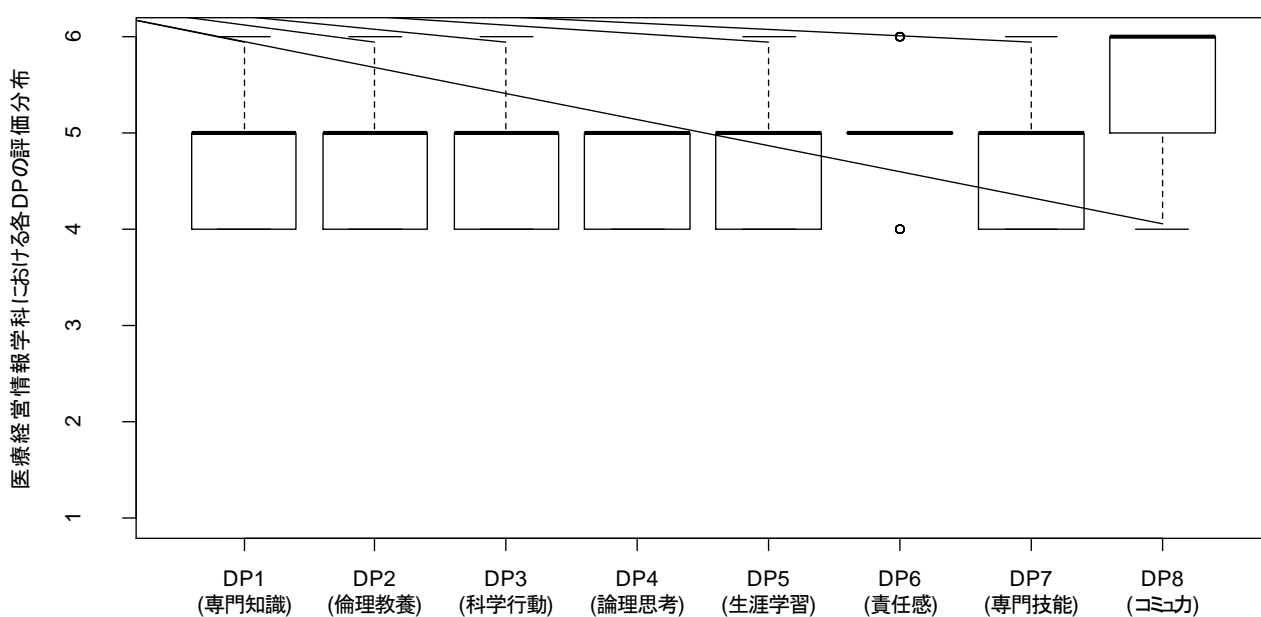
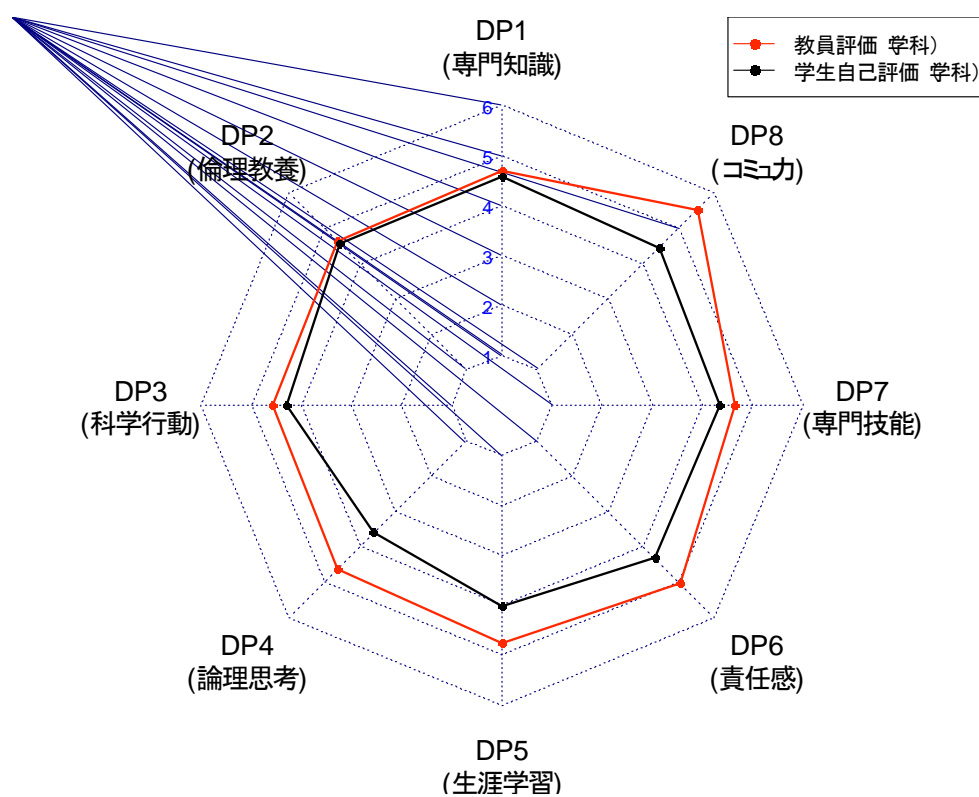


図 1-18. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 医療経営情報学科の教員評価結果分布

表 1-11. 医療科学部ディプロマ・ポリシー 医療経営情報学科の教員評価結果概要

| 医経 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.68 | 4.63 | 4.58 | 4.63 | 4.76 | 5.03 | 4.66 | 5.53 |
| 標準偏差 | 0.65 | 0.62 | 0.54 | 0.48 | 0.67 | 0.58 | 0.57 | 0.55 |
| 中央値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| n | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 |



| 医経 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 教員評価 a | 4.68 | 4.63 | 4.58 | 4.63 | 4.76 | 5.03 | 4.66 | 5.53 |
| 学生自己評価 b | 4.58 | 4.58 | 4.29 | 3.61 | 4.03 | 4.32 | 4.34 | 4.45 |
| 差 a-b | 0.10 | 0.05 | 0.29 | 1.02 | 0.73 | 0.71 | 0.32 | 1.08 |

図 1-19. 医療経営情報学科における教員評価と学生自己評価の比較 (平均値)

2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

2-1) 調査方法

医療科学部の2018年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、医療科学部ディプロマ・ポリシーの教員評価と同様に学習成果可視化システムのカリキュラムマップを利用して到達度を算出した。学生により選択科目が履修されていない場合は、DP到達目標平均点を求める計算より除外した。到達度は表1-1の換算表を用いて、1～6の値に変換し、これを教員評価による各学生の各学科のディプロマ・ポリシーの到達度とした。

2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

2-2-1) 臨床検査学科

臨床検査学科ディプロマ・ポリシーを表2-1に示す。

2018年度臨床検査学科4年生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-1に示す。各DPに対する評価の割合を図2-2に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-2に示す。DP1～DP7について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-3に示す。

2018年度臨床検査学科4年の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、図2-2及び表2-2に示す通り、すべての設問の中央値が「5：概ね修得できた」を示していた。教員評価のすべてのDPの平均値は4.80と「4：最低水準は修得できている」以上の評価であった。各DPの教員評価の平均の最小値はDP1（知識・技能）であり、最大値がDP4（地域貢献）であった。DP2（倫理責任）以外の項目は「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」が含まれていたが、ごくわずかであった。教員評価の内訳については図2-2に示す通り、すべてのDPの評価が60%以上を占めた。学生自己評価と教員評価の比較については図20に示す通り、学生自己評価の結果は教員評価の結果とほとんど差がなかったことから、学生自己評価の結果は概ね妥当な評価がなされていると推察できる。DP4は他のDPと比べると、教員評価の方が若干高い傾向を得た。DP4に関する設問は地域社会で貢献する意志と積極性について問うものであり、多くの学生は、その能力を養うことができていると考えるが、該当する科目内での取り組みが不十分である可能性があり、学生がより学修成果が身についたことを実感させるような教育手法を検討することも必要であると思われる。以上の結果をまとめると、すべてのDPの教員評価の平均値は「4：最低水準は修得できている」以上であり、学生の自己評価と教員評価の差は小さく、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたと考える。

表 2 - 1. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー

| | |
|----------------|--|
| DP1 (知識技能) | 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についている。 |
| DP2 (倫理責任) | 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。 |
| DP3 (チーム医療) | 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。 |
| DP4 (地域貢献) | 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。 |
| DP5 (生涯学習) | 常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。 |
| DP6 (国際探求) | 研究的探究心を失うことなく、常に向上心を持ち、グローバルに活躍する意志と積極性が身についている。 |
| DP7 (判断解決) | 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についている。 |

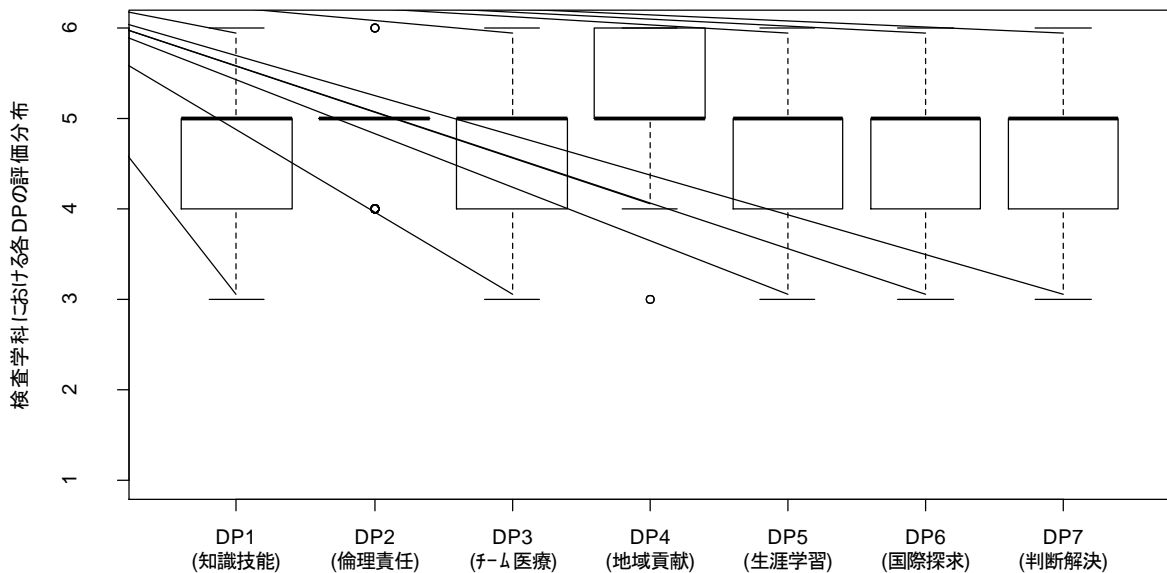


図 2 - 1. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達 教員評価結果 回答分布

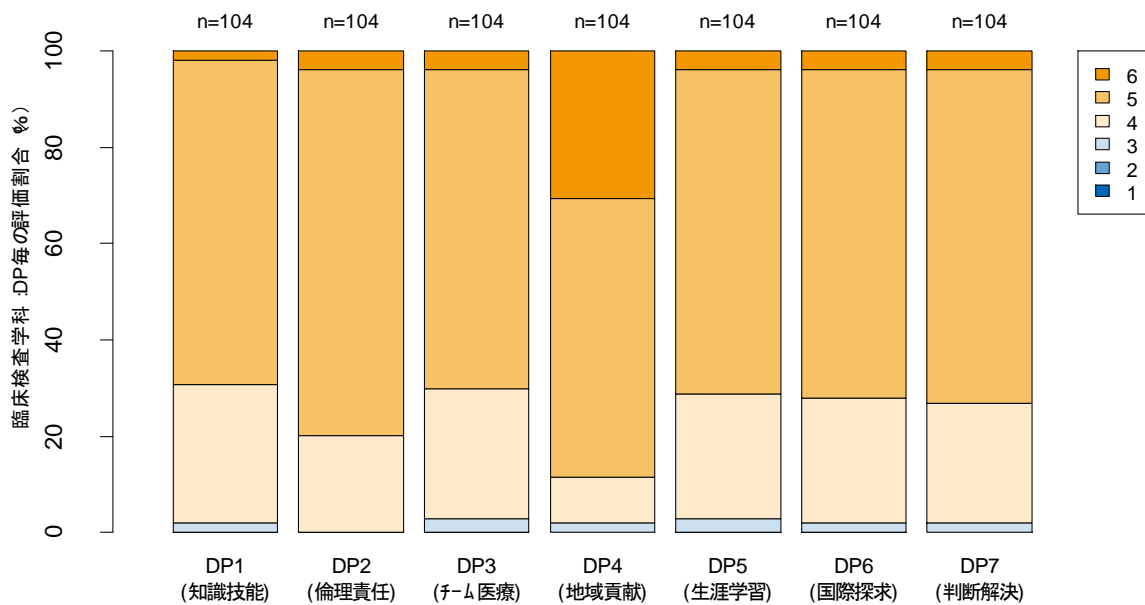
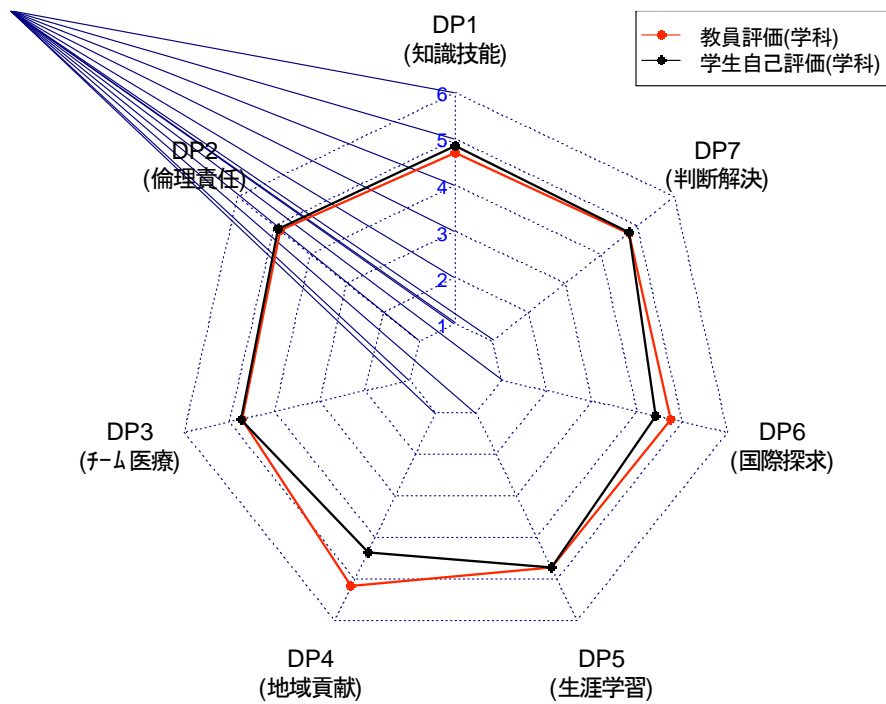


図 2 - 2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 DP 毎の評価割合

表 2 - 2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 基本統計量

| 検査 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.69 | 4.84 | 4.71 | 5.17 | 4.72 | 4.74 | 4.75 |
| 標準偏差 | 0.54 | 0.46 | 0.58 | 0.67 | 0.58 | 0.55 | 0.55 |
| 中央値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| n | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 | 104 |



| 検査 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| 教員評価 a | 4.69 | 4.84 | 4.71 | 5.17 | 4.72 | 4.74 | 4.75 |
| 学生自己評価 b | 4.84 | 4.88 | 4.73 | 4.35 | 4.73 | 4.40 | 4.76 |
| 差 a-b | -0.14 | -0.04 | -0.02 | 0.83 | -0.01 | 0.34 | -0.01 |

図 2 - 3. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 評定平均値の比較

2-2-2) 看護学科

看護学科ディプロマ・ポリシーを表2-3に示す。

2018年度看護学科4年生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-4に示す。各DPに対する評価の割合を図2-5に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-4に示す。DP1～DP8について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-6に示す。

2018年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価の結果は、図2-5及び表2-4に示す通り、すべての設問の中央値が「5：概ね修得できた」を示していた。教員評価のすべてのDPは4.39～4.85であり「4：最低水準は修得できている」以上の評価であった。学生自己評価と教員評価の比較については学部DPと同様、図2-5に示す通りDP1～DP8までのすべての項目で、学生自己評価は教員評価よりも高い値となった。学生自己評価の結果は教員評価の結果と差がみられ、学生自己評価の結果は教員評価よりも高い値となった。

教員評価では、各DPはほぼ同じ値であるが、学生自己評価ではDP1（知識技能）、DP2（看護基礎）、DP3（自律責任）、DP4（生涯学習）、DP5（コミュカ）が「5：概ね修得できている」と高く評価をしている。教員評価との差は大きく0.11～0.74であった。学生自己評価が高いDP3（責任感）、DP5（コミュカ）については、他のDPとは違い、「責任ある言動を取ることができる」「援助的コミュニケーションが取れる」という情動的な評価であり、アンケートをとった時期や学生の達成感との関連があるかもしれない。以上の結果をまとめると、すべてのDPの教員評価の平均値は「4：最低水準は修得できている」以上であり、学生の自己評価と教員評価の差は見られるものの、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたと考える。

表 2-3. 看護学科ディプロマ・ポリシー

| | |
|---------------|---|
| DP1 (知識技能) | 看護職の基盤となる知識と技能が身についている。 |
| DP2 (看護基礎) | 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。 |
| DP3 (自律責任) | 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。 |
| DP4 (生涯学習) | 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢を身につけている。 |
| DP5 (コミュ力) | 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。 |
| DP6 (協調指導) | 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。 |
| DP7 (地域貢献) | 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。 |
| DP8 (国際探求) | 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。 |

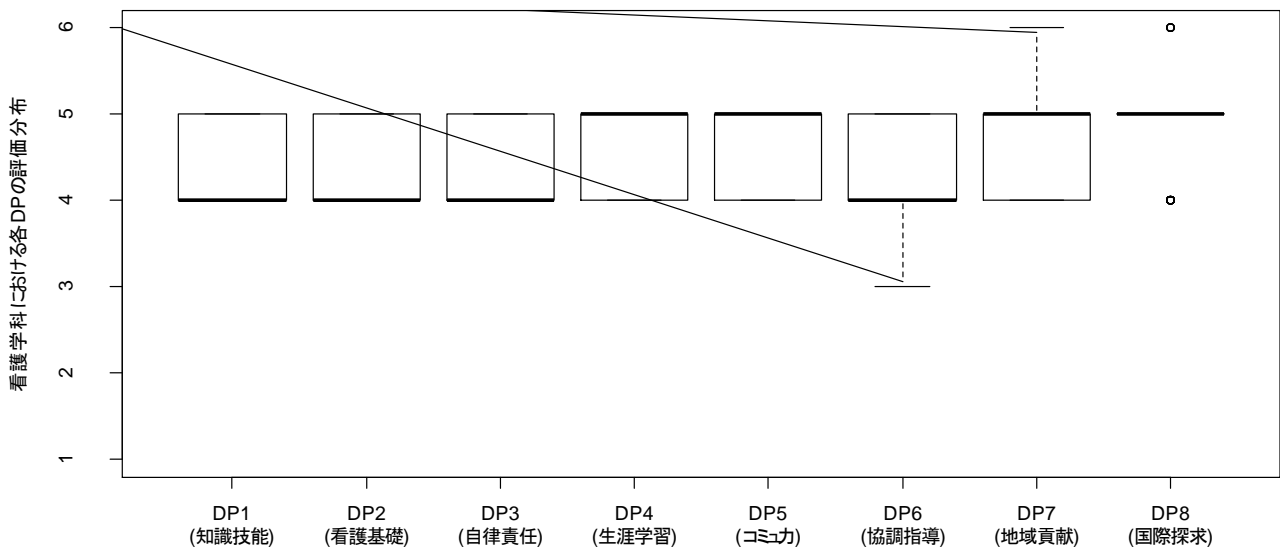


図 2-4. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 回答分布

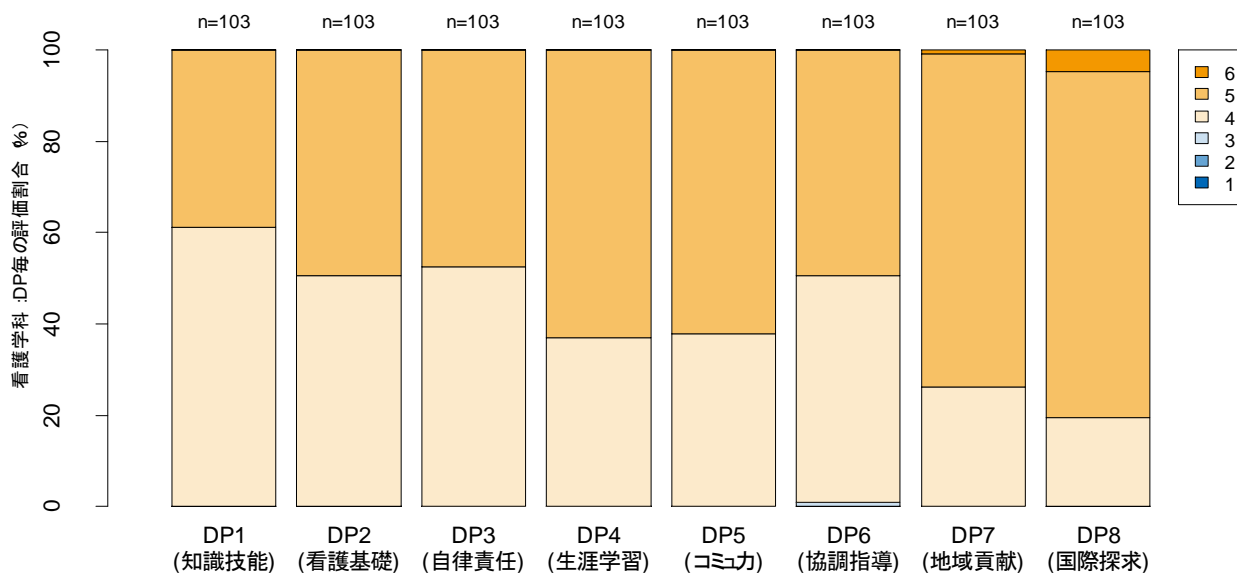
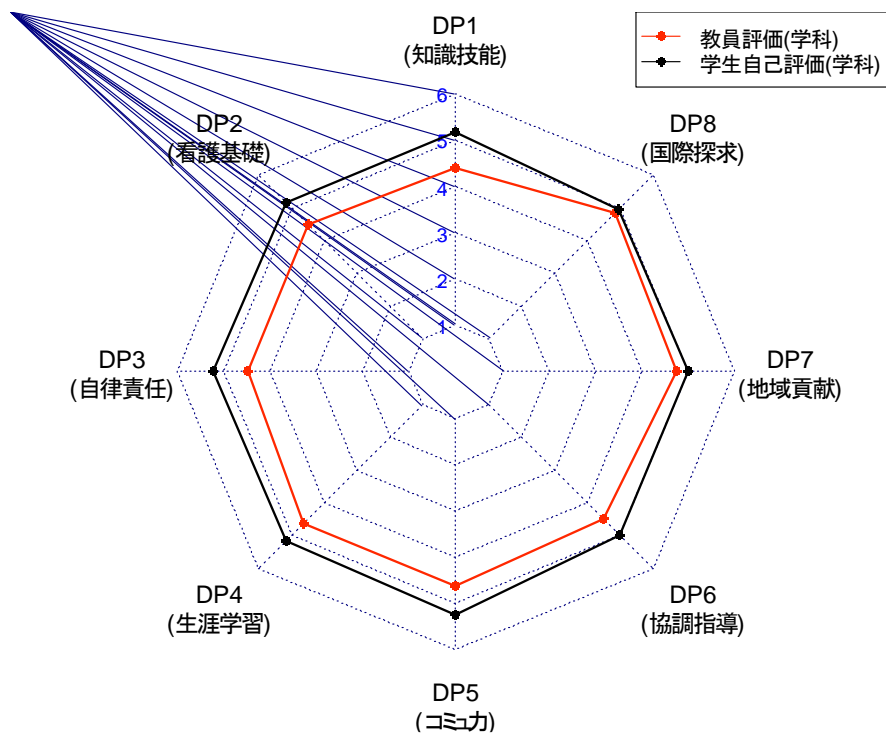


図 2-5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 DP 毎の評価割合

表 2-4. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 基本統計量

| 看護 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.39 | 4.50 | 4.48 | 4.63 | 4.62 | 4.49 | 4.75 | 4.85 |
| 標準偏差 | 0.49 | 0.50 | 0.50 | 0.48 | 0.49 | 0.52 | 0.46 | 0.47 |
| 中央値 | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 5 | 5 |
| 最大値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 |
| 最小値 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 |
| n | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 |



| 看護 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 | DP8 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教員評価 a | 4.39 | 4.50 | 4.48 | 4.63 | 4.62 | 4.49 | 4.75 | 4.85 |
| 学生自己評価 b | 5.16 | 5.17 | 5.21 | 5.16 | 5.24 | 4.99 | 4.99 | 4.96 |
| 差 a-b | -0.77 | -0.67 | -0.74 | -0.52 | -0.62 | -0.50 | -0.24 | -0.11 |

図 2 - 5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 評定平均値の比較

2-2-3) 放射線学科

放射線学科ディプロマ・ポリシーを表2-5に示す。

2018年度放射線学科4年生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-7に示す。各DPに対する評価の割合を図2-8に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-6に示す。DP1～DP5について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-9に示す。

2018年度放射線学科4年の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、表2-6の結果にて、すべての設問の中央値が「4：最低水準は習得できた」～「5：概ね修得できた」を示している。その内訳については、DP1（論理態度）以外の項目では50%以上が「6：完全に修得できている」「5：概ね修得できた」の評価であるのに対して、DP1は「5：概ね修得できた」が45%程度にとどまり、残りが「4：最低水準は習得できた」の評価であった。DP1は、医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけているかを問うものであり、実習と一般教養科目が対応している。前者については診療放射線技師として必要不可欠な病院実習やそのプレトレーニングの実習を多く含むため評価基準が厳しく、後者については入学年次の科目が多く勉強の方法がわからないまま定期試験に入り得点率が低い傾向があることが原因として考えられる。自己評価と教員評価の差については、DP5（国際探求）を除いて自己評価のほうが高い傾向にあった。DP5（国際探求）が教員評価よりも自己評価が低かった理由として、DP5は多くの語学系科目に対応しているが、2018年度卒業生は英語の苦手意識があり、実際よりも英語能力を低く自己評価している可能性がある。何れにせよ、自己評価と教員評価の差は小さく、教員評価の平均値は4.61であり、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたことが裏付けられた。

表 2-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| DP1 (倫理態度) | 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。 |
| DP2 (チーム医療) | チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を身につけている。 |
| DP3 (知識技能) | 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につけている。 |
| DP4 (判断解決) | 診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる。 |
| DP5 (国際探求) | 医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につけている。 |

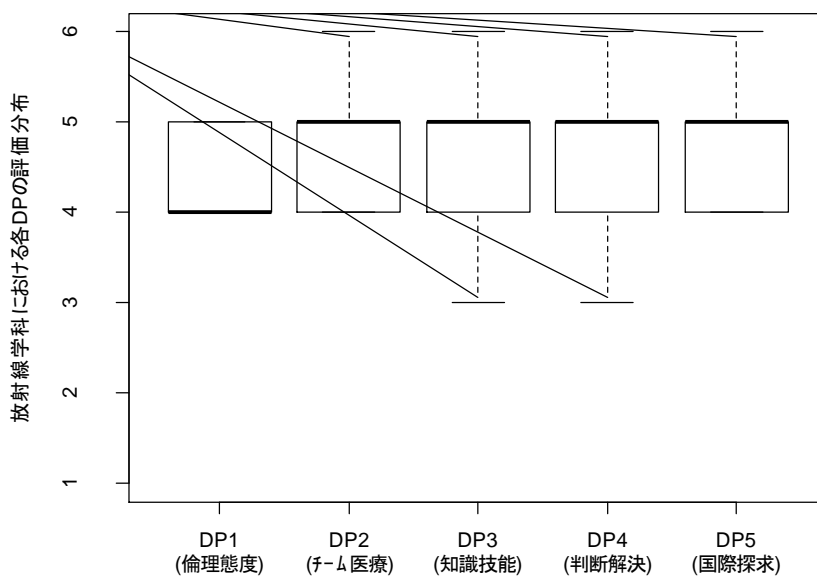


図 2-7. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 回答分布

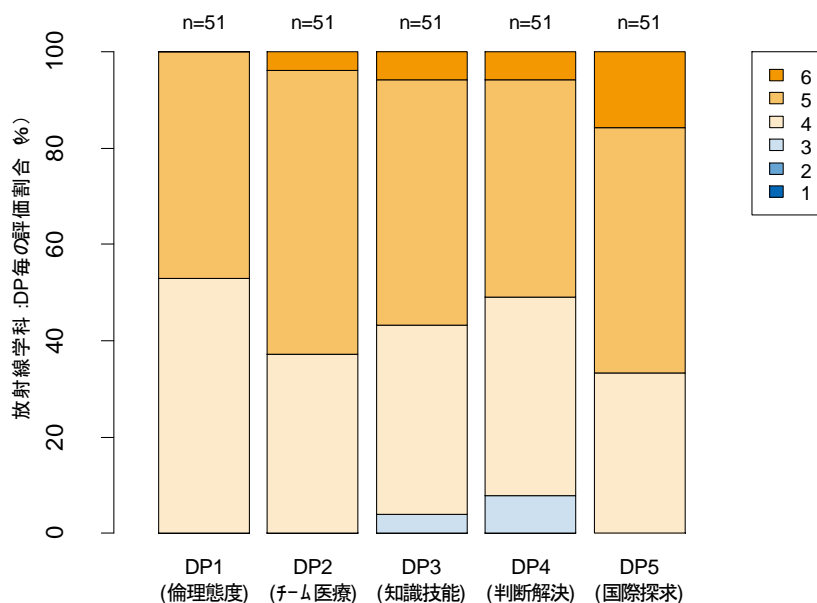
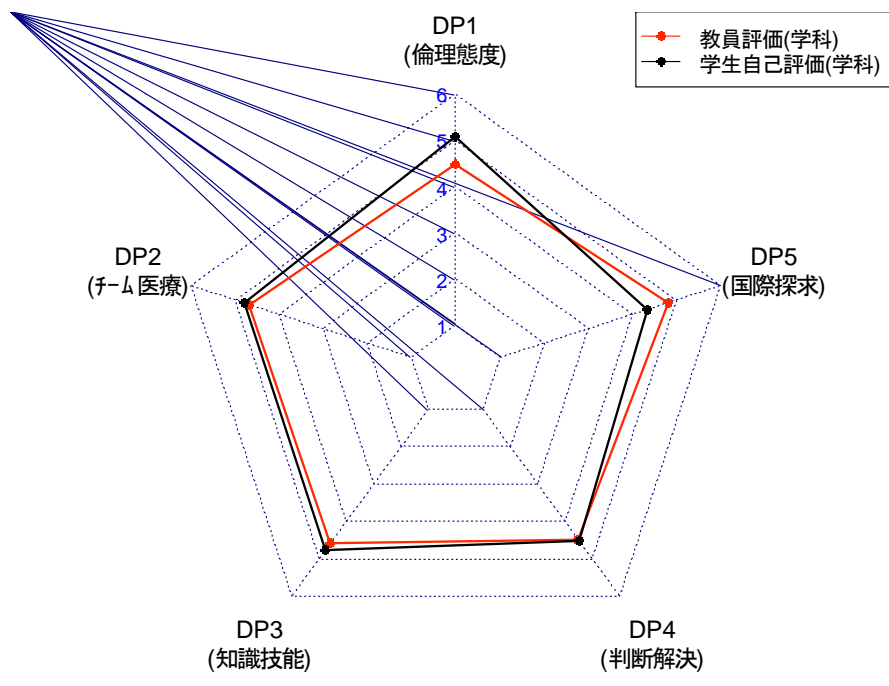


図 2-8. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 DP 毎の評価割合

表 2-6. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 基本統計量

| 放射 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 |
|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.47 | 4.67 | 4.59 | 4.49 | 4.82 |
| 標準偏差 | 0.50 | 0.55 | 0.66 | 0.72 | 0.68 |
| 中央値 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 4 | 4 | 3 | 3 | 4 |
| n | 51 | 51 | 51 | 51 | 51 |



| 放射 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 |
|----------|-------|-------|-------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.47 | 4.67 | 4.59 | 4.49 | 4.82 |
| 学生自己評価 b | 5.06 | 4.78 | 4.77 | 4.51 | 4.33 |
| 差 a-b | -0.59 | -0.12 | -0.18 | -0.02 | 0.49 |

図 2 - 9 . 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 評定平均値の比較

2-2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーを表2-7に示す。

2018年度リハビリテーション学科・理学療法専攻の4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-10に示す。各DPに対する評価の割合を図2-11に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-8に示す。DP1～DP7について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-12に示す。

2018年度リハビリテーション学科・理学療法専攻の4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、DP1～DP7の全てにおいて中央値が「4：最低水準は修得できた」以上であり、且つ、学生評価と大きく異なることはなかった。また、最大値は「5：概ね修得できている」、最小値は「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」であった。自己評価値と教員評価値の平均値の差は最大でDP7（チーム医療）の0.48、最小でDP2（倫理態度）の-0.07であった。

教員評価が高い値となったDP7（チーム医療）は、保健・医療・福祉の諸制度を理解するとともに、高いコミュニケーション能力をもってチーム医療の役割を果たすことができたかを問う項目である。DP7は、本学科の特徴である客観的臨床能力試験（OSCE）、豊富な臨床実習などを通して得られたものであり、教員評価が高かったと考えられる。今後、学生に対してより学修成果が身についたことを実感させるような教育手法の検討が必要と考える。いずれにせよ、学生自己評価と教員評価の差は小さく、教員評価の平均値は4.53であり、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたことが裏付けられた。

表 2-7. リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー

| | |
|----------------|---|
| DP1 (専門知識) | 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身につけている。 |
| DP2 (倫理態度) | 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身につけている。 |
| DP3 (科学行動) | 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができる。 |
| DP4 (生涯学習) | 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる。 |
| DP5 (地域貢献) | 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができる。 |
| DP6 (専門技能) | 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができる。 |
| DP7 (チーム医療) | 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。 |

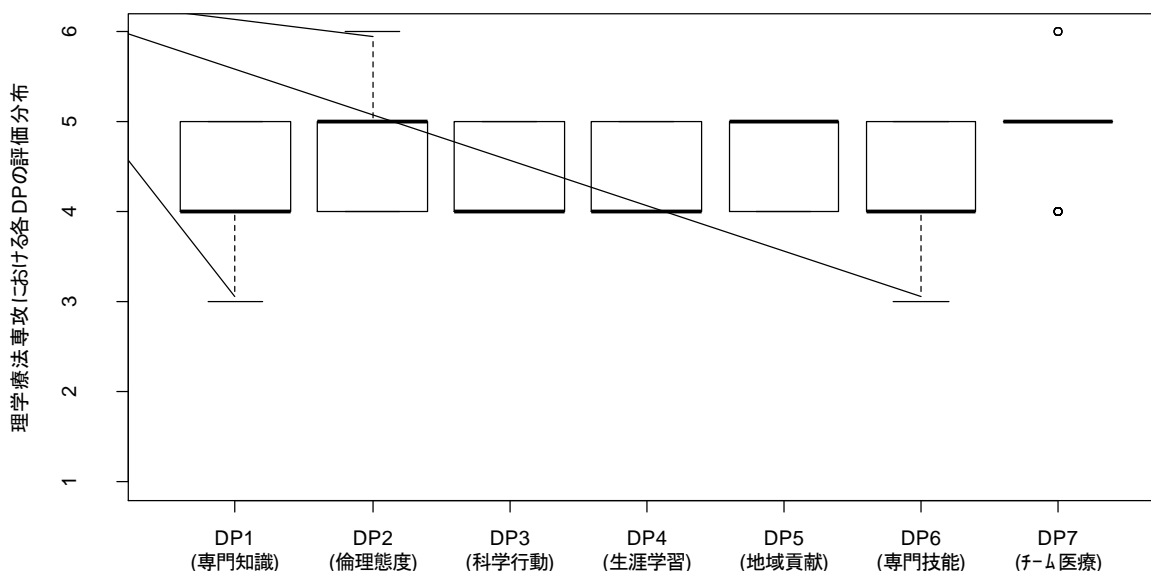


図 2-10. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 回答分布

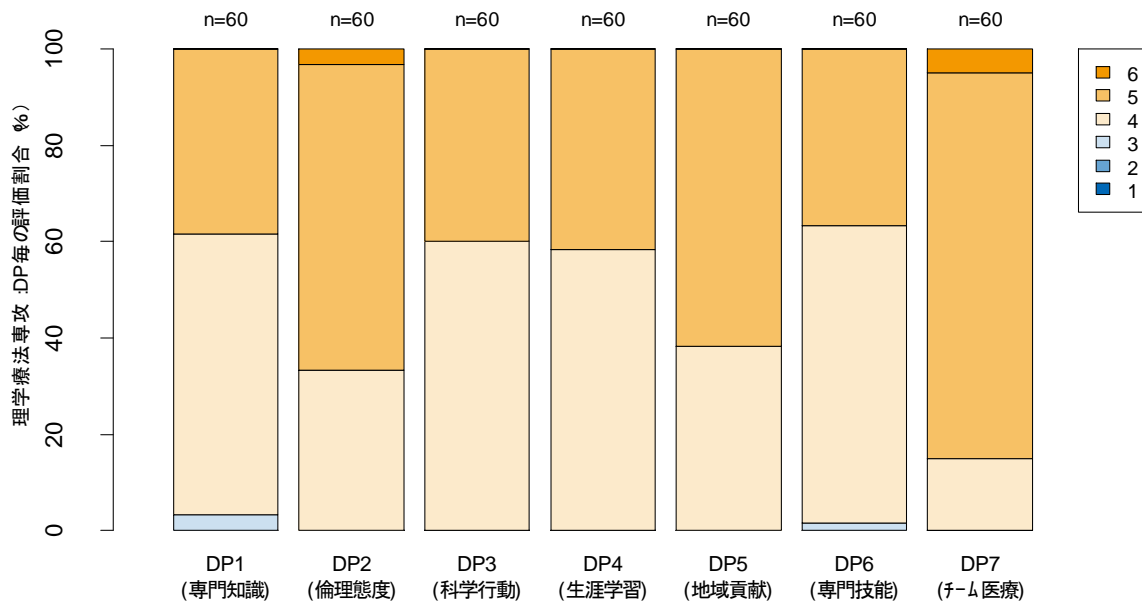
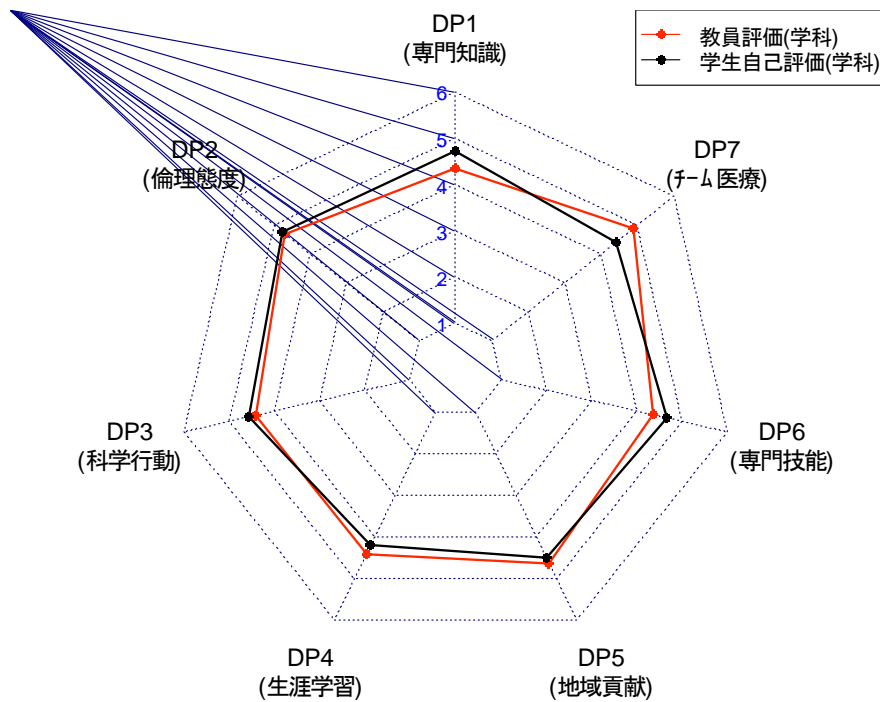


図 2-11. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
DP 毎の評価割合

表 2-8. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
基本統計量

| リ理学 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.35 | 4.70 | 4.40 | 4.42 | 4.62 | 4.35 | 4.90 |
| 標準偏差 | 0.54 | 0.53 | 0.49 | 0.49 | 0.49 | 0.51 | 0.44 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4 | 5 |
| 最大値 | 5 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 |
| 最小値 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 |
| n | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 |



| リハ・理学 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|----------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.35 | 4.70 | 4.40 | 4.42 | 4.62 | 4.35 | 4.90 |
| 学生自己評価 b | 4.73 | 4.77 | 4.57 | 4.20 | 4.50 | 4.67 | 4.42 |
| 差 a-b | -0.38 | -0.07 | -0.17 | 0.22 | 0.12 | -0.32 | 0.48 |

図 2-12. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
 評定平均値の比較

2-2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

2018年度リハビリテーション学科・作業療法専攻の4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー（表2-7）に対する到達度の教員評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-13に示す。各DPに対する評価の割合を図2-14に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-9に示す。DP1～DP7について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-15に示す。

2018年度リハビリテーション学科・作業療法専攻の4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、DP4（生涯学習）、DP5（地域貢献）、DP7（チーム医療）では自己評価より高い値を示し、DP1（専門知識）、DP2（倫理態度）、DP3（科学行動）、DP6（専門技能）では自己評価より低い値を示した。自己評価値と教員評価値の平均値の差は最大でDP1（専門知識）の -0.67 、最小でDP7（チーム医療）の 0.14 であった。いずれのDPも中央値は「4：最低水準は修得できた」以上であり、最大値は「5：概ね修得できている」、最小値は「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」であった。

教員評価と自己評価の差が大きかったDP1は、リハビリテーションの専門知識を習得するとともに、学問を深化させる能力が習得できたかを問う項目である。DP1の教員評価が低かったのは、教員の評価は専門基礎分野や専門分野の多くの科目から算出されるため、この項目を十分に感度良く捉えていない可能性があることが考えられる。いずれにせよ、自己評価と教員評価の差は大きくなく、教員評価の平均値は4.34であり、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたことが裏付けられた。

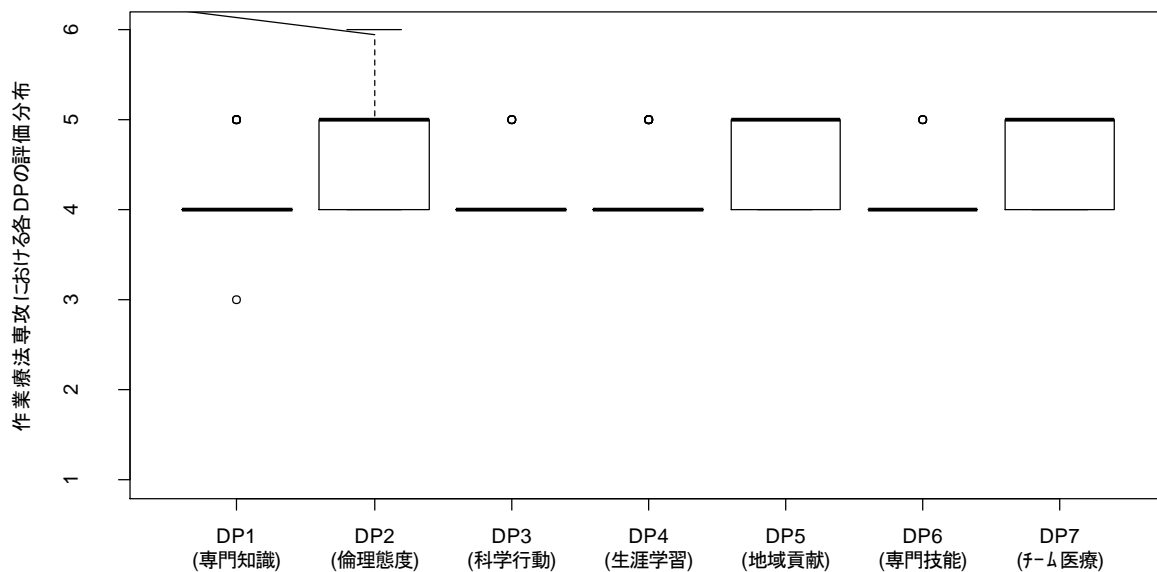


図 2-13. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
回答分布

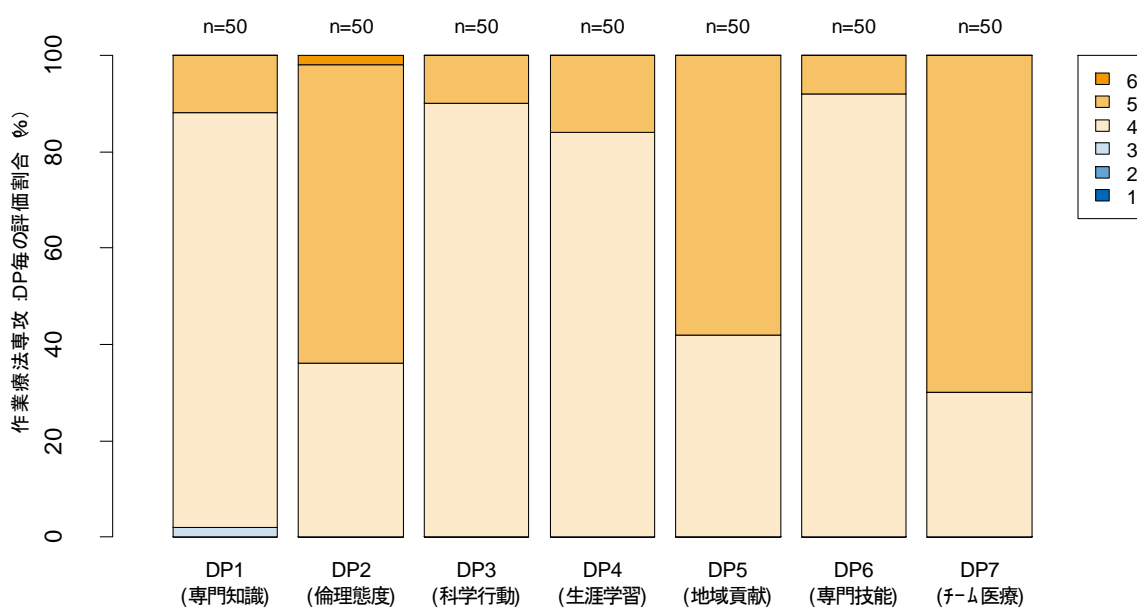
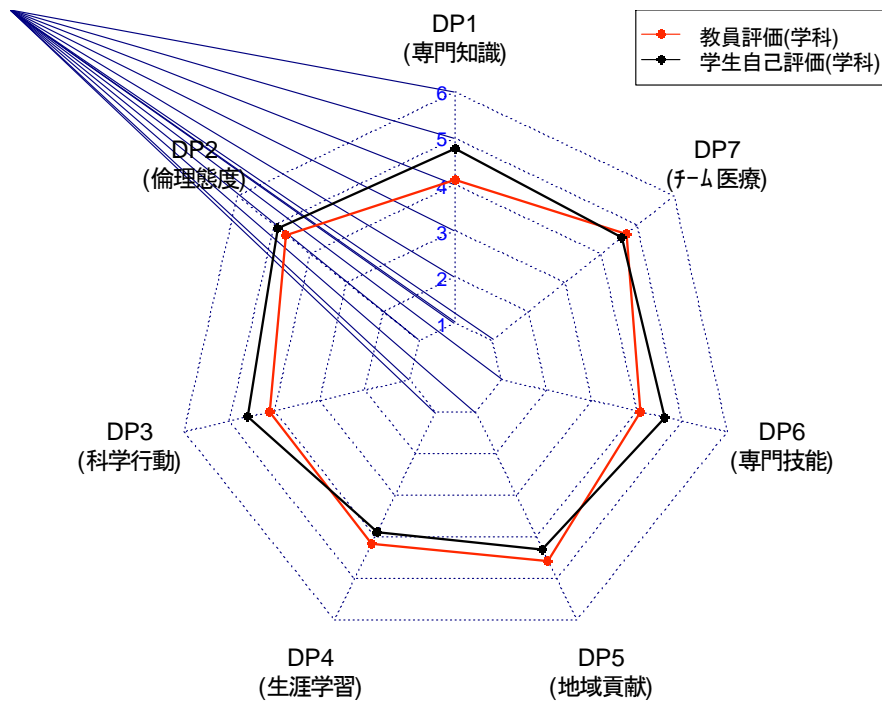


図 2-14. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達 教員評価結果
DP 毎の評価割合

表 2-9. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
基本統計量

| リ作業 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.10 | 4.66 | 4.10 | 4.16 | 4.58 | 4.08 | 4.70 |
| 標準偏差 | 0.36 | 0.51 | 0.30 | 0.37 | 0.49 | 0.27 | 0.46 |
| 中央値 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4 | 5 |
| 最大値 | 5 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最小値 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| n | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |



| リハ・作業 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|----------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|
| 教員評価 a | 4.10 | 4.66 | 4.10 | 4.16 | 4.58 | 4.08 | 4.70 |
| 学生自己評価 b | 4.77 | 4.90 | 4.58 | 3.90 | 4.29 | 4.62 | 4.56 |
| 差 a-b | -0.67 | -0.24 | -0.48 | 0.26 | 0.29 | -0.54 | 0.14 |

図 2-15. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果
評定平均値の比較

2-2-6) 臨床工学科

臨床工学科ディプロマ・ポリシーを表2-10に示す。

2018年度臨床工学科4年生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-16に示す。各DPに対する評価の割合を図2-17に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-11に示す。DP1～DP5について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-18に示す。

2018年度臨床工学科4年の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、DP1～DP5のいずれも評価値の平均値はおおむね「4：最低水準は習得できた」であった。中央値は「4：最低水準は習得できた」と「5：概ね修得できている」を示し、学科ディプロマ・ポリシーはある程度達成できている状況であった。また、それぞれの評価値の平均値は、学生自己評価調査の平均値より0.1～0.3ポイント低かった。学生の自己評価はすべての設問の平均値で「4：最低水準は習得できた」となっていた。

すべての項目において、教員評価と学生自己評価のそれぞれに偏りはなく、各DPの教員評価と学生自己評価の差は少なかった。しかしながら、教員評価より学生自己評価の方がポイントが若干高いことから、学科ディプロマ・ポリシーをおおむね達成した学生を輩出することができたことが裏付けられた。

表2-10. アンケート調査の設問項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

| | |
|----------------|---|
| DP1 (知識技能) | 臨床工学技術領域に従事するための基本的な知識・技能が身につけている。 |
| DP2 (医工統合) | 安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合できる。 |
| DP3 (生涯学習) | 常に向上心を持ち生涯学び続ける事の大切さを理解できる。 |
| DP4 (チーム医療) | 高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもっている。 |
| DP5 (地域貢献) | 臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができている。 |

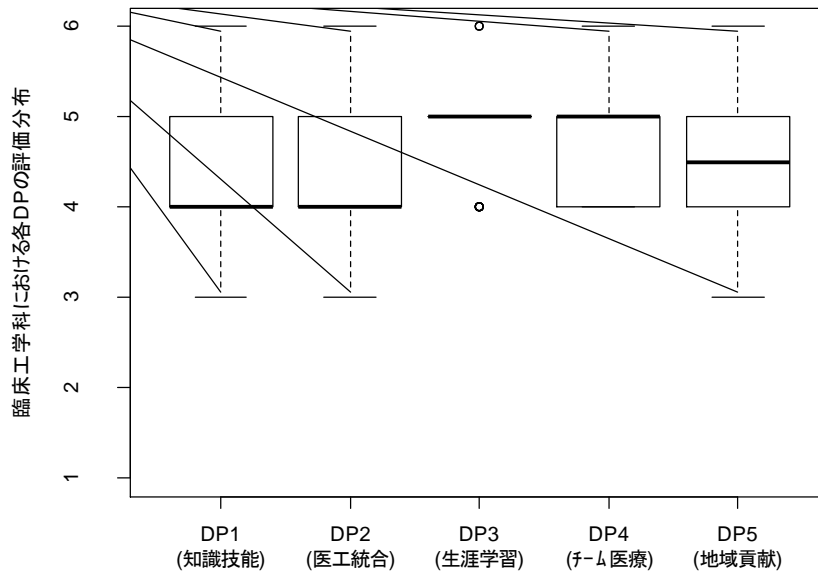


図 2-16. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 回答分布

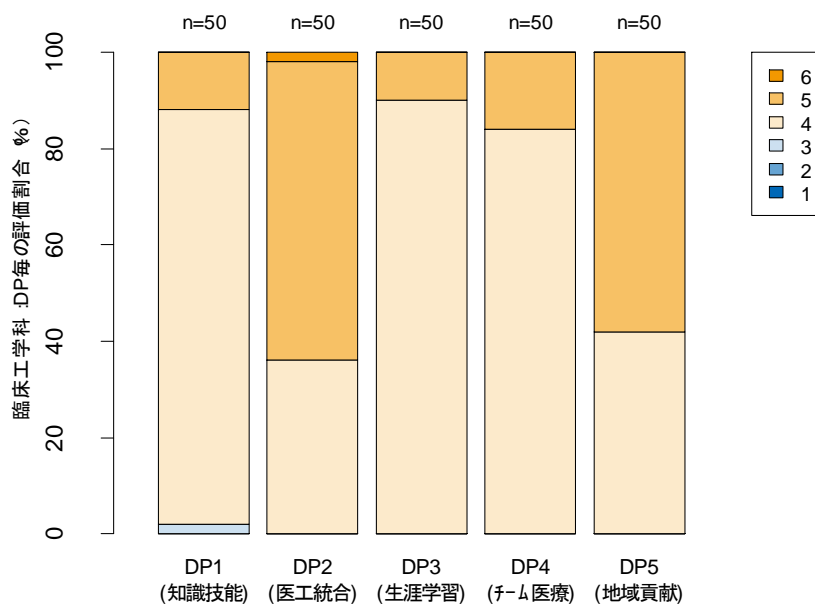
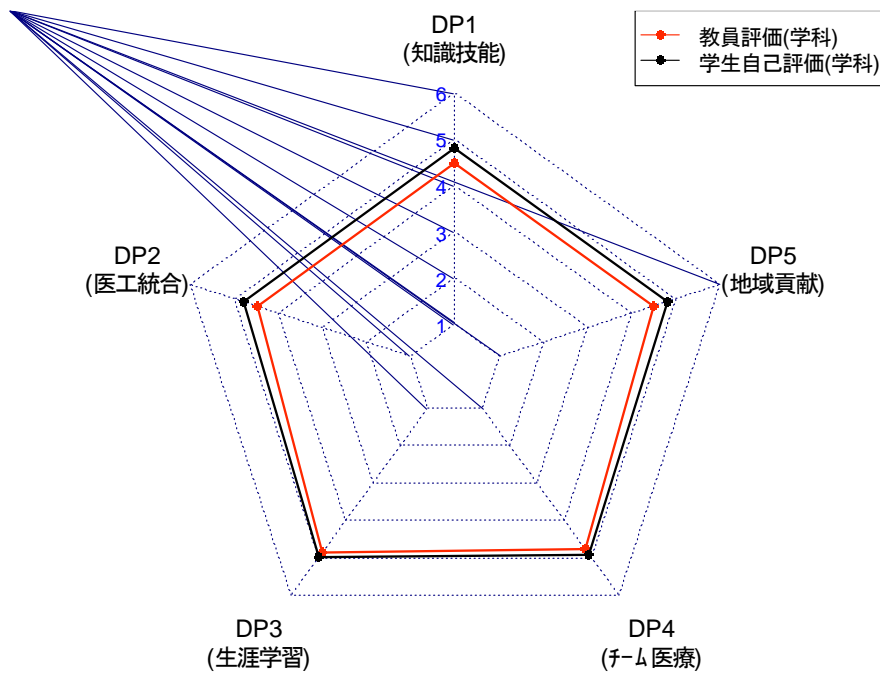


図 2-17. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 DP 毎の評価割合

表 2-11. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 基本統計量

| 臨工 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 |
|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.47 | 4.48 | 4.86 | 4.76 | 4.50 |
| 標準偏差 | 0.59 | 0.56 | 0.47 | 0.54 | 0.56 |
| 中央値 | 4 | 4 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 3 | 3 | 4 | 4 | 3 |
| n | 58 | 58 | 58 | 58 | 58 |



| 臨工 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教員評価 a | 4.47 | 4.48 | 4.86 | 4.76 | 4.50 |
| 学生自己評価 b | 4.79 | 4.78 | 4.97 | 4.91 | 4.81 |
| 差 a-b | -0.33 | -0.29 | -0.10 | -0.16 | -0.31 |

図 2-18. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 評定平均値の比較

2-2-7) 医療経営情報学科

医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーを表2-12に示す。

2018年度医療経営情報学科4年生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の教員評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-19に示す。各DPに対する評価の割合を図2-20に示す。

教員評価結果について、簡便に6段階の評定を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。教員評価結果について、DPごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-13に示す。DP1～DP7について、教員評価の平均値および学生自己評価調査における各DPの自己評価の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-21に示す。

2018年医療経営情報学科4年の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する教員評価は、DP2（チーム医療）、DP7（経営管理）、DP6（医療情報）、DP3（生涯学習）、DP4（診療報酬）では自己評価より高い値を示し、DP5（診療情報）では自己評価より低い値を示した。DP1（分析管理）については学生自己評価とほぼ同じ値を示した。自己評価値と教員評価値の平均値の差は最大でDP2（チーム医療）の0.68、最小でDP5（診療報酬）の-0.21であった。教員評価は、いずれのDPも中央値は「5：概ね修得できている」であり、「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価はなかった。

教員評価と学生評価の差が大きくなったDP2（チーム医療）は、学生評価の値は他のDPとほぼ同じ値なのに対し、教員評価は他のDPと比較し高い値となっている。教員評価は実習系科目、臨地実習を中心としたカリキュラムマップでDP2を算定しており、実習系科目の成績評価と、学生自身が科目履修により知識・技能を身に着けた実感との差が生じている可能性がある。カリキュラムマップの設定により評価が高めの傾向にある可能性もあるため、見直しの検討も必要である。いずれにせよ、学生に対してより学修成果が身についたことを実感させるような教育手法の検討が必要と考える。教員評価が低い値となったDP5（診療情報）は、教員評価を算出するのに用いるカリキュラムマップにおいて、資格試験取得のために自己学修を徹底させるカリキュラムが多く配置されている。学修に力を入れたという実感が多い分、学生の自己評価は高くなり、純粋に知識・技能レベルを評価した教員評価は若干シビアな評価となったと考えられる。何れにせよ、自己評価と教員評価の差は小さく、教員評価の平均値は4.61～5.08で中央値はすべて5であり、学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生を輩出することができたことが裏付けられた。

表 2-12. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー

| | |
|----------------|--|
| DP1 (分析管理) | 医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身についている。 |
| DP2 (チーム医療) | 医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についている。 |
| DP3 (生涯学習) | 社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身についている。 |
| DP4 (診療報酬) | 診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身についている。 |
| DP5 (診療管理) | 診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。 |
| DP6 (医療情報) | 医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。 |
| DP7 (経営管理) | 経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身についている。 |

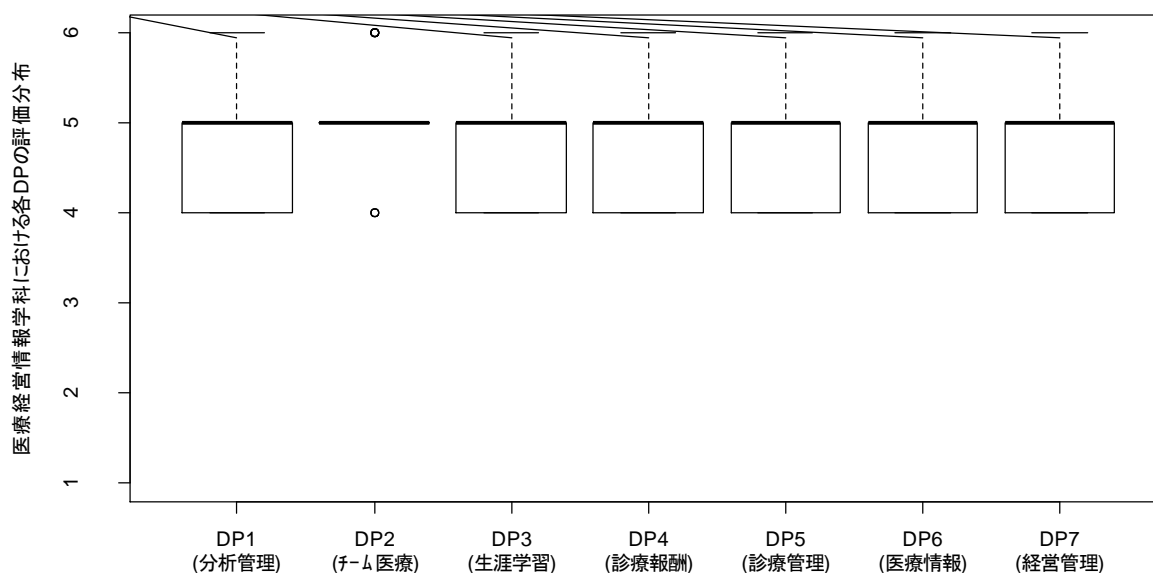


図 2-19. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 回答分布

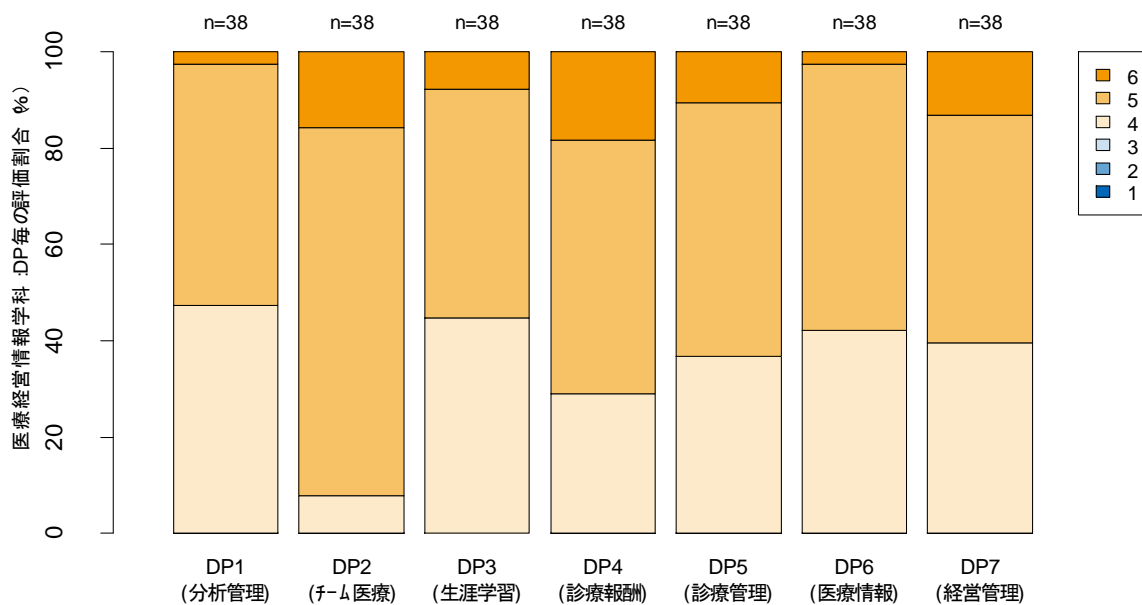
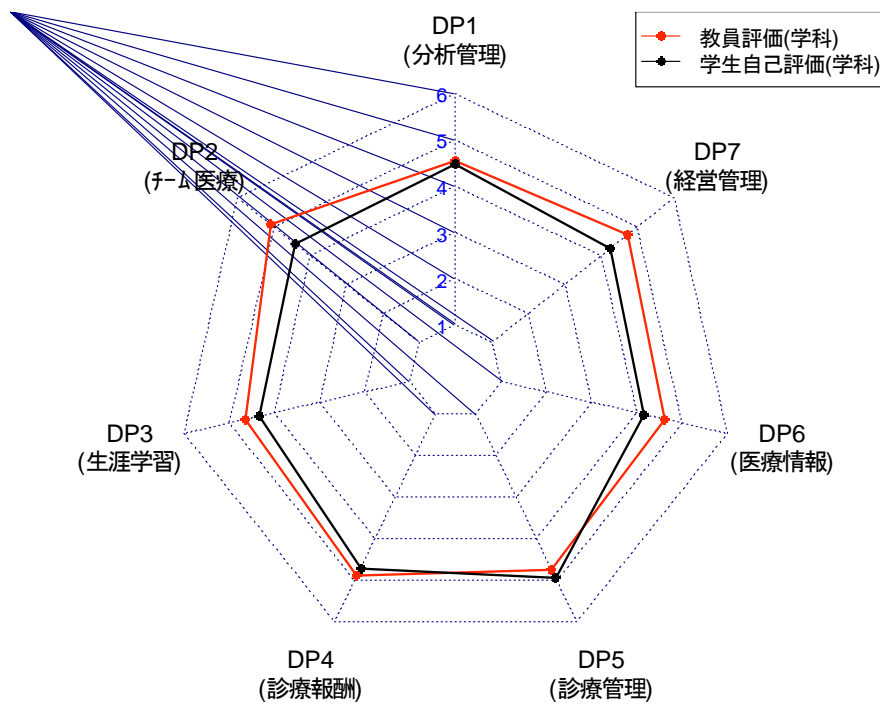


図 2-20. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 DP 毎の評価割合

表 2-13. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 基本統計量

| 医経 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 4.55 | 5.08 | 4.63 | 4.89 | 4.74 | 4.61 | 4.74 |
| 標準偏差 | 0.55 | 0.48 | 0.62 | 0.68 | 0.64 | 0.54 | 0.68 |
| 中央値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 最大値 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 最小値 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| n | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 |



| 医経 | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|----------|------|------|------|------|-------|------|------|
| 教員評価 a | 4.55 | 5.08 | 4.63 | 4.89 | 4.74 | 4.61 | 4.74 |
| 学生自己評価 b | 4.47 | 4.40 | 4.34 | 4.71 | 4.95 | 4.16 | 4.26 |
| 差 a-b | 0.08 | 0.68 | 0.29 | 0.18 | -0.21 | 0.45 | 0.47 |

図 2-21. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度 教員評価結果 評定平均値の比較